

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第282集

長土呂遺跡群

# 上 聖 端 遺 跡 VI

長野県佐久市長土呂 上聖端遺跡VI発掘調査報告書

2021.9

佐久市教育委員会

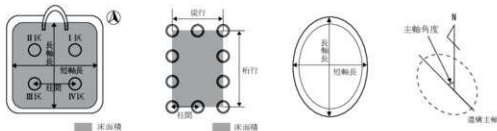


## 例言

- 1 本書はIPD ロジスティクス株式会社・有限会社市川測量設計による倉庫新築工事に伴う上聖端遺跡VIの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 IPD ロジスティクス株式会社・有限会社市川測量設計
- 3 調査主体者 佐久市教育委員会
- 4 遺跡名及び所在地 長土呂遺跡群 上聖端遺跡VI (NNK VI)  
長野県佐久市長土呂字上聖端 140-1 他
- 5 調査期間及び面積 発掘調査期間：令和2年4月2日～令和2年6月8日  
整理作業期間：令和2年6月9日～令和3年9月  
面積：1,820 m<sup>2</sup>
- 6 調査担当者 久保 浩一郎
- 7 本書の編集・執筆は久保が行った。
- 8 本調査において出土した遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。  
H－堅穴住居址 F－掘立柱建物址 D－土坑 M－溝址 P－ピット
- 2 遺構断面図の標高は遺構ごとに統一し、スケールバー上に値を示した。遺物実測図は縮尺1/4で掲載し、縮尺が異なる場合は個別に縮尺を記載した。
- 3 遺構の計測値は以下の値である。堅穴住居址は、主軸に沿って十字に土層観察用の群を設定し、北東側から反時計回りにⅠ～Ⅳ区に区分し、遺物を取り上げた。



- 4 スクリーントーンを表示は以下のとおりである。

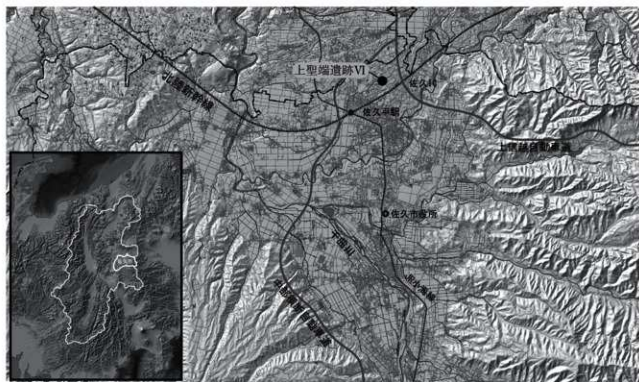


- 5 遺物写真番号は遺物実測図に対応し、特に記載のないものは縮尺1/4で掲載した。
- 6 本書で示した方位は真北であり、座標値は世界測地系に準拠している。
- 7 遺物観察表における( )値は推定値を、〈 〉値は残存値を示す。
- 8 第1図は、地理院タイルの色別標高図及び陰影起伏図、国土数値情報(行政区画データ)を基に作成した。

## 目 次

第Ⅰ章	発掘調査の経緯	1
第1節	調査にいたる経緯	1
第2節	調査組織	1
第3節	調査日誌	1
第4節	遺構・遺物の概要	2
第Ⅱ章	遺跡の位置と環境	2
第1節	地理的環境	2
第2節	歴史的環境	2
第3節	発掘調査の方法と基本層序	4
第Ⅲ章	遺構と遺物	5
第1節	竪穴住居址	5
第2節	掘立柱建物址	32
第3節	土坑	35
第4節	溝址	35
第5節	ピット	36
第Ⅳ章	まとめ	40

### 写真図版



第1図 上聖端遺跡VI位置図

## 第1章 発掘調査の経緯

### 第1節 調査にいたる経緯

長土呂遺跡群は、佐久市北部の長土呂地籍に所在する縄文時代から中世までの複合遺跡である。今回、遺跡内でIPD ロジスティクス株式会社及び有限会社市川測量設計による倉庫新築工事が計画されたことにより、対象地7,858㎡について遺構の確認調査を実施した。その結果、対象地全域に古墳時代から平安時代までの住居址等が分布することが確認された。

保護協議の結果、倉庫建設範囲の1,820㎡について、遺構の記録保存を目的とした本調査を実施することとなった。

### 第2節 調査組織

#### 調査主体者

佐久市教育委員会 教育長 榑澤 晴樹（～令和3年5月） 吉岡 道明（令和3年5月～）

#### 事務局

社会教育部長  
文化振興課長  
文化振興課企画幹  
文化財調査係長  
文化財調査係  
調査担当者  
調査員

三浦 一浩（令和2年度） 土屋 孝（令和3年度）  
東城 洋（令和2年度） 平林 照義（令和3年度）  
岡部 政也（令和2年度） 谷津 和彦（令和3年度）

山本 秀典

富沢 一明 上原 学 羽毛田 卓也 小林眞寿 久保 浩一郎

久保 浩一郎

赤羽根 篤 赤羽根 充江 浅沼 勝男 大矢 志慕 桐原 久人 小島 真

清水 律子 田中 ひさ子 中澤 登 羽毛田 利明 比田井 久美子

舟田 和夫 堀籠 まゆみ 堀籠 保子 松本 仁宣 森泉 文恵 森泉 美由起

柳澤 孝子 横尾 敏雄 依田 好行

### 第3節 調査日誌

#### 令和元年度

11月7日

IPD ロジスティクス株式会社より土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出を受理。

12月11日～13日

対象地内で遺構の確認調査を実施し、対象地全域で堅穴住居址等を確認する。

12月19日～

IPD ロジスティクス株式会社に、確認調査の結果を通知し、保護協議を開始する。

保護協議の結果、対象地のうち工場建設範囲の1,820㎡について、遺構の記録保存を目的とした本調査を実施することとし、費用は対象地所有者である有限会社市川測量設計が負担することとなった。

#### 令和2年度

4月2日

有限会社市川測量設計と佐久市教育委員会により、埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結。

4月2日～6月8日	倉庫建設範囲1,820㎡について、記録保存のための本調査を実施する。
6月9日	佐久市文化財事務所において、記録及び出土遺物の整理作業を開始。
3月19日	令和2年度の整理作業を終了。
令和3年度	
4月22日	有限会社市川測量設計と佐久市教育委員会により、埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、遺物整理作業及び報告書作成を開始。
9月	発掘調査報告書を刊行し、業務を終了する。

#### 第4節 遺構・遺物の概要

遺構	竪穴住居址20軒（古墳時代～平安時代）、掘立柱建物址4棟、土坑2基、溝址2条、ピット35基
遺物	縄文土器（早期）、弥生土器（後期）、土師器（古墳時代後期～平安時代）、須恵器（古墳時代後期～平安時代）、灰釉陶器、土製品（紡錘車、丸玉）、石器（石鏃、磨石、敲石、編物石）、石製品（白玉、石製模造品）、鉄製品（鏃、鎌）

## 第二章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

佐久市は長野県の中央東端、四方を山地に囲まれた標高約700mの盆地内に位置し、北方には現在も噴煙を上げる浅間山を、南方には雄大な八ヶ岳連峰を望むことができる。

市内の地形を概観すると、浅間山南麓の浅間火山岩類及び浅間軽石流を基盤とする北側市街地域、鮮新世火山岩類を基盤とする東側山間地域、八ヶ岳火山岩類を基盤とする南側から西側にかけての山間地域、瓜生坂累層・布引累層などの湖沼堆積物を基盤とする北西側の御牧原・八重原台地、そしてこれらの中央を北流する千曲川により形成された沖積地などに大別される。

上聖端遺跡VIは、佐久市北端部に位置する。遺跡周辺では、約13,000年前の火山堆積と考えられる浅間軽石流が基盤層となるが、この火山堆積物が濁川などの河川による浸食を受け、箱型の台地と谷が交互に連なる「田切り」地形が特徴的に発達している。本遺跡はこの「田切り」地形の台地部分に立地しており、調査区北側は比高差約10mを測る濁川の谷となる。

### 第2節 歴史的環境

本遺跡周辺は佐久市有数の遺跡密集地であり、北東から南西に延びる台地全体に遺跡群が形成され、田切りの谷によって区切られている（第2図）。遺跡周辺には上信越自動車道佐久インターチェンジ等が整備され、佐久市における交通の要所であることから、道路や商業施設等の建設に伴う発掘調査が行われてきた。

現在の調査成果では、本遺跡周辺で縄文時代の集落は確認されていないが、縄文時代早期からの生活痕跡は確認され、本調査区でも早期の押型土器が出土している。弥生時代後期には台地末端部で周防畑遺跡群、西近津遺跡群、枇杷阪遺跡群などに大規模な集落跡が形成される。当該期における地域の中核を成すような集落だった可能性も考えられる。古墳時代後期になると、本遺跡周辺にも集落

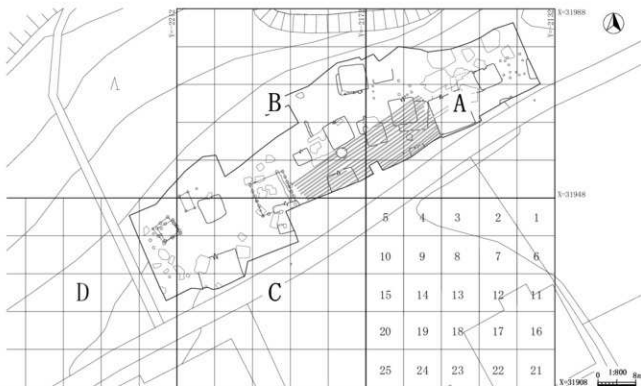


が形成される。本遺跡から隣接する聖原遺跡にかけて、また濁川を隔てた北側の芝宮遺跡群において、平安時代まで続く大規模な集落が出現する。聖原遺跡では奈良・平安時代を主体とする竪穴住居址が800棟以上検出され、和同開珎などの皇朝十二銭や硯や腰帯金具、「伯万私印」の石製印などの希少な遺物が出土している。本遺跡周辺から北側には、小諸市・御代田町にかけて古代の大規模集落が分布しており、古代佐久郡において重要な地域であったと考えられている。中世になると遺跡数は減少するものの、本遺跡南側の岩村田地籍には大井城跡、近世には藤ヶ城跡が築かれ、今日の佐久市中心市街地の礎となった。

### 第3節 発掘調査の方法と基本層序

調査区内の表土を遺構検出面まで重機により掘削した。対象地は過去の耕作等により地山ローム層まで攪乱され、遺構構築面は削平されている状態であった。よって遺構検出面は地山上面である。表土除去後、調査区内に国土地理院の平面直角座標系原点第Ⅷ系を基点とするグリッド杭を打設した。杭は調査区北東のX=31988、Y=2132を起点として8m間隔で打設し、アルファベット名を付した40m四方の大グリッドと、大グリッド内を25等分して数字名を付した8m四方の小グリッドの組合せによりグリッド名とした（北東からA-1グリッド）。グリッド設定後、各遺構を人力で掘下げ、土層観察用の畔による遺構断面図の作成、グリッド杭を用いた簡易遺方測量による遺構平面図の作成を行うとともに、デジタル一眼レフカメラ（LAW・JPEG）と35mm一眼レフカメラ（カラーリバーサル）により遺構の記録写真撮影を行った。出土遺物は、遺構ごと或いはグリッド単位で取り上げた。

現場での作業終了後は、佐久市教育委員会文化振興課文化財事務所にて記録及び出土遺物の整理作業を行った。本書の作成については、Adobe社のIllustrator、Photoshop、Indesignを用いて編集、執筆した。



第4図 上聖端遺跡VIグリッド配置図



### 第Ⅲ章 遺構と遺物

#### 第1節 竪穴住居址

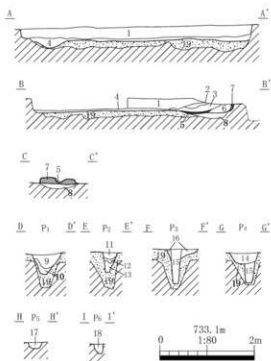
##### H1号住居址 (第5・6図)

A-7グリッドに位置し、H3号住居址より新しい。長軸4.83m、短軸4.14m、床面積19.9㎡を測るやや東西に長い方形を呈する。検出面から床面までの深さは0.34m、主軸はW-25° -Nである。住居床面は硬質で、ピットは6基検出され、P1～P4が柱穴、P5・P6が入口施設と考えられる。カマドは北側中央に位置し、灰白色粘土により構築される。貼床は6cm～20cm程度の厚さが確認でき、掘方は周

H1号住居址平面図



H1号住居址掘方平面図



- |    |         |                         |
|----|---------|-------------------------|
| 1  | 10YR3/1 | 黒褐色土 灰黄褐色土・黄褐色土ブロック多量含む |
| 2  | 10YR2/1 | 黒色土 明褐色粘土ブロック含む         |
| 3  | 10YR7/1 | 明褐色粘土 カマド構築土            |
| 4  | 10YR2/1 | 黒色土 しまり強、ロームブロック多量含む    |
| 5  | 5YR6/6  | 橙色土 焼土層                 |
| 6  | 10YR3/1 | 黒褐色土 灰多量含む              |
| 7  | 10YR8/1 | 灰白色粘土 カマド構築土            |
| 8  | 10YR3/1 | 黒褐色土 ロームブロック含む          |
| 9  | 10YR4/1 | 暗灰色土 明褐色粘土ブロック多量含む      |
| 10 | 10YR4/1 | 暗灰色土 しまり弱               |
| 11 | 10YR3/3 | 暗褐色土 しまり弱               |
| 12 | 10YR3/3 | 暗褐色土 ロームブロック含む          |
| 13 | 10YR6/2 | 灰黄褐色土 しまり弱              |
| 14 | 10YR4/2 | 灰黄褐色土 しまりやや弱            |
| 15 | 10YR4/2 | 灰黄褐色土 しまり弱、ロームブロック少量含む  |
| 16 | 10YR3/1 | 黒褐色土 ロームブロック含む          |
| 17 | 10YR3/1 | 黒褐色土 しまりやや弱             |
| 18 | 10YR3/3 | 暗褐色土 しまりやや弱             |
| 19 | 10YR4/2 | 灰黄褐色土 しまり強、ロームブロック多量含む  |

第5図 H1号住居址遺構図

面が段状に掘り残される形状である。掘方ではビット1基が検出された。

遺物は土師器・須恵器等が出土した。1～7は土師器で、1・2は坏、3は小型の鉢だろうか。4は甕、5～7は壺である。6・7はカマド近くの床面上で出土した。8～11は須恵器で、8は坏、9・10は蓋、11は壺である。12・13は磨石である。

羽釜が出土したH3号住居址より新しいことから、本址は8世紀後半以降の所産と考えられる。

#### H2号住居址（第7図）

A-6グリッドに位置する。東側が調査区外に延びるため全容は不明だが、検出範囲で南北5.04m以上、東西1.76m以上を測る。検出面から床面までの深さは0.39m、主軸はW-14° - Nである。住居床面はやや硬質で、柱穴と考えられるビット1基が検出された。貼床は3cm～30cm程度の厚さが確認で、掘方は中央部を高く残し、外周部が深くなる形状である。

遺物は土師器と須恵器が出土した。1・2は土師器で、1には内面に黒色処理が施される。3～6は須恵器で、3が蓋、4・5は坏、6は壺である。これらの出土遺物から、本址は8世紀以降の所産と考えられる。

#### H3号住居址（第8図）

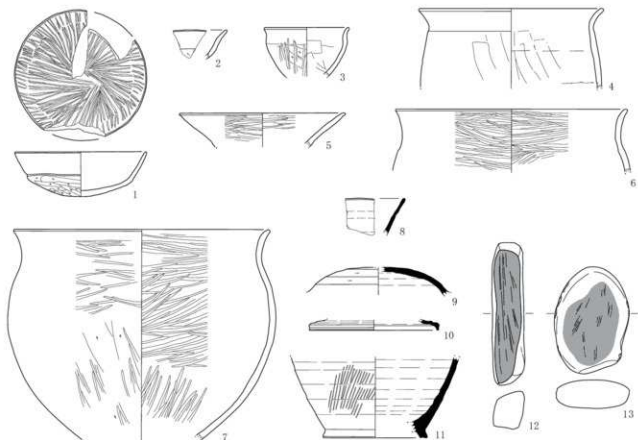
A-8グリッドに位置し、H1号住居址より古く、H8号住居址より新しい。南北両側に攪乱を受けるため全容は不明だが、推定で長軸5.39m、短軸4.63m、床面積24.38㎡を測る。東西に長い長方形を呈すると考えられる。検出面から床面までの深さは0.22m、主軸はW-14° - Nである。住居床面は硬質で、ビットは3基検出され、いずれも柱穴と考えられる。カマドは北側中央に位置するが、わずかな焼土と東側の袖部が遺存するのみであった。貼床は5cm～12cmの厚さが確認できる。

遺物は土師器・須恵器などが出土した。1・2は土師器の羽釜で、床面上とP3から出土した。2・3は須恵器の坏、5は砥石、6は鉄製の長頭織である。出土遺物から、本址は8世紀後半の所産と考えられる。

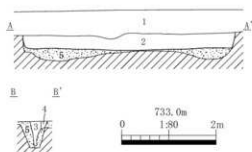
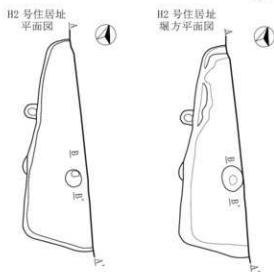
#### H4号住居址（第9～12図）

A-13グリッドに位置し、H8号住居址より新しい。北東角を攪乱に破壊されるが、平面形は方形で、南北7.61m、東西7.72m、床面積51.02㎡を測る。検出面から床面までの深さは0.53m、主軸はW-20° - Nである。住居床面は硬質で、ビットが9基検出され、P1～P4が柱穴と考えられる。南側のP3・P4周辺からは角礫が検出されたが、礫は床面より上で検出されている。南側中央のP7・P8・P10は入口施設と考えられる。カマドは北側のやや西寄りに位置し、灰白色の良質な粘土と扁平礫により構築されている。貼床は4～27cmの厚さで、掘方は中央部が浅く、外周部が深い形状である。掘方では12基のビットが検出された。四方の柱穴P1～P4の内側と外側にビットが位置することから、住居の建替えが行われた結果と考えられる。北側中央には、壁面から北側に張出すように、被熱して硬化した灰白色粘土が残り、建替える際にカマドも作り替えたと考えられる。

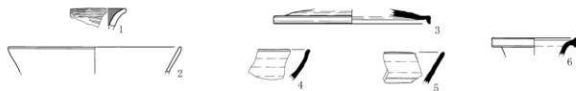
遺物は土師器などが出土した。1～14は土師器である。1～3は坏で、1はロクロ成形で底部に回転糸切痕を留める。2・3はヘラケズリが施された丸みのある底部から段をもって立ちあがり、内面には黒色処理が施される。2・3は住居北側の床面から出土した。4は高坏で、内外面とも丁寧にヘラミガキがされ、内面は黒色処理が施される。カマド東側床面に正位で置かれた状態で出土した。5～8は甕である。外面の調整方法に違いがみられ、5はヘラケズリ、6はハケによる調整、7はヘラミガキが施される。5はカマド西側の床面に胴部上半以上が正位に置かれた状態で、7はカマド前の床面に潰れた状態で出土した。8は台付甕の台部と考えられる。9～14は壺である。いずれも球形の胴部で



第6図 H1号住居址遺物図

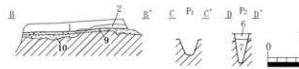
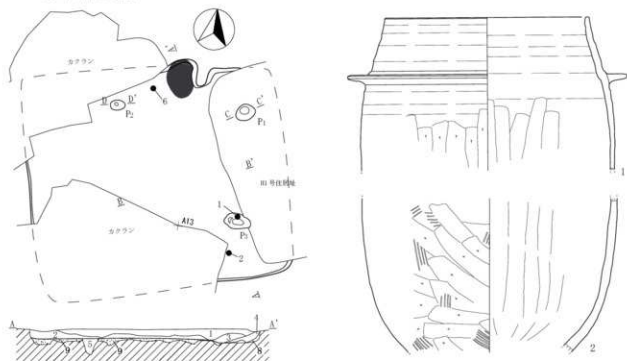


- 1 10YR4/1 褐灰色土 表土、現代の履丸を受ける。
- 2 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック多量含む。
- 3 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック多量含む、しまり弱い。
- 4 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック多量含む。
- 5 10YR3/1 黒褐色土 しまり強く、ロームブロック多量含む。



第7図 H2号住居址遺構図・遺物図

H3号住居址平面図



- 1 10YK3/1 黒褐色土 焼灰色土ブロック含む。
- 2 10YR4/1 焼灰色土 ロームブロック含む。
- 3 10YR4/1 焼灰色土 焼土ブロック含む。
- 4 10YR4/1 焼灰色土 焼土ブロック・灰白色粘土ブロック多量含む。
- 5 10YK3/1 黒褐色土 しまり弱。
- 6 10YR4/1 焼灰色土 ロームブロック含む。
- 7 10YR7/4 にぶい橙色土 しまり弱。
- 8 10YR4/2 灰黄褐色土 焼土ブロック含む。
- 9 10YR4/1 焼灰色土 しまり強い。ロームブロック多量含む。
- 10 10YR4/1 焼灰色土 ロームブロック多量含む。H8号住居址方。

第8図 H3号住居址遺構図・遺物図

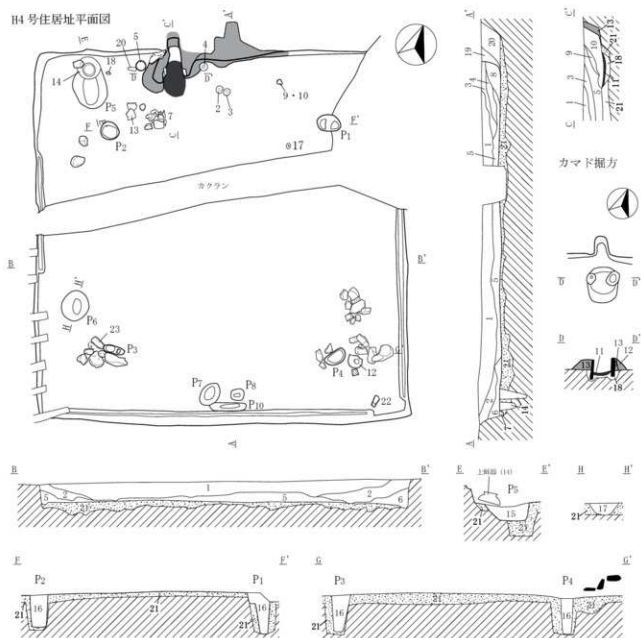
頸部が括れ、口縁部が広がる形態である。9・10・13は住居内北側の床面から、12はP4横の床面から出土した。14は大型の壺だが、住居内北西の壁際に、胴部下半を欠いたまま正位に置かれた状態で出土した。15は土製の紡錘車である。16は滑石製の白玉である。17～23は石器で、17は凹石、18・19は敲石、20は軽石製の支脚、21は磨石、22・23は砥石である。

出土遺物から、本址は6世紀後半～7世紀の所産と考えられる。1の土師器坏のみやや新しい特徴を有するが、住居址埋土への混入品と考えられる。

### H5号住居址 (第13図)

A-12グリッドに位置する。住居址北西部部分だけの検出であるため全容は不明だが、検出範囲で南北0.64m、東西3.45mを測る。検出面から床面までの深さは0.34mである。住居床面は硬質で、ピットは検出されなかった。カマドは北側中央に位置し、粘質土で構築されている。貼床は8cm～31cmの厚さが確認できる。遺物は土師器片等が出土したが、実測し得る遺物は出土しなかった。

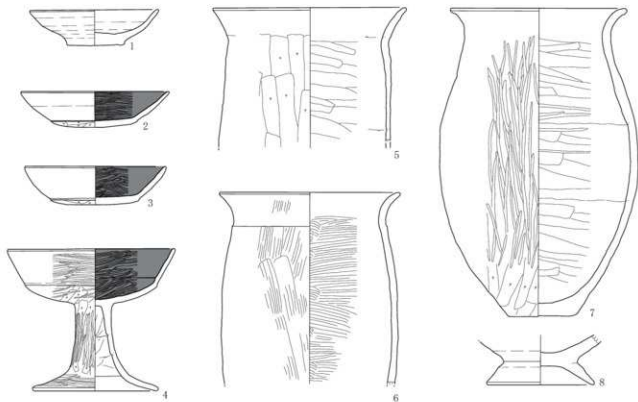
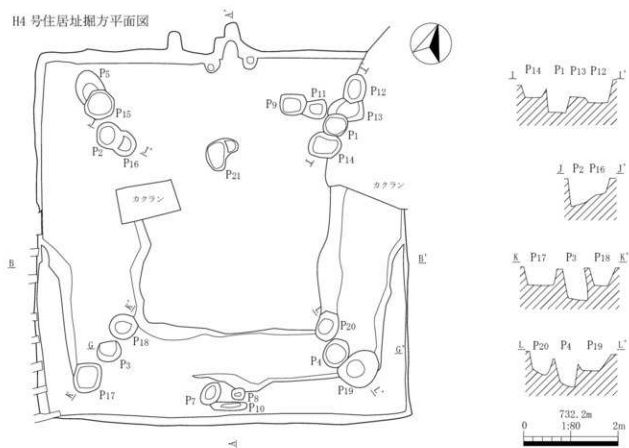
H4号住居址平面図



- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 1 10YR4/1 褐灰色土 黒褐色土ブロック・軽石多量含む。  | 12 10YR3/1 黒褐色粘土 しまり強。カマド構築土。           |
| 2 10YR4/2 灰黄褐色土 黒褐色土ブロック・軽石含む。   | 13 10YR8/1 灰白色粘土 しまり強。カマド構築土。           |
| 3 10YR6/1 褐灰色粘土 黒褐色土ブロック・軽石多量含む。 | 14 10YR5/1 褐灰色土 黒褐色土・ロームブロック多量含む。       |
| 4 10YR3/1 黒褐色土 黄褐色土ブロック・軽石含む。    | 15 10YR3/3 暗褐色土 しまり弱。黒褐色土ブロック含む。        |
| 5 10YR4/2 灰黄褐色土 黒褐色土ブロック少量含む。    | 16 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり弱。黒褐色土・ロームブロック多量含む。 |
| 6 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。      | 17 10YR3/3 暗褐色土 しまり弱。ロームブロック含む。         |
| 7 10Y3/2 黒褐色土 ロームブロック含む。しまり弱。    | 18 10YR5/1 褐灰色土 しまりやや弱。灰・炭化物含む。カマド面方。   |
| 8 10YR4/2 灰黄褐色土 灰白色粘土ブロック含む。     | 19 10YR5/2 灰黄褐色粘土 灰白色粘土多量含む。旧カマド。       |
| 9 10YR3/1 黒褐色土 灰白色粘土ブロック多量含む。    | 20 10YR8/1 灰白色粘土 しまり強。旧カマド構築土。          |
| 10 10YR8/1 灰白色粘土 黒褐色土含む。         | 21 10YR4/1 褐灰色土 粘土。にぶい橙色砂質土ブロック多量含む。    |
| 11 5YR6/8 橙土 焼土。                 |   |

第9図 H4号住居址遺構図1

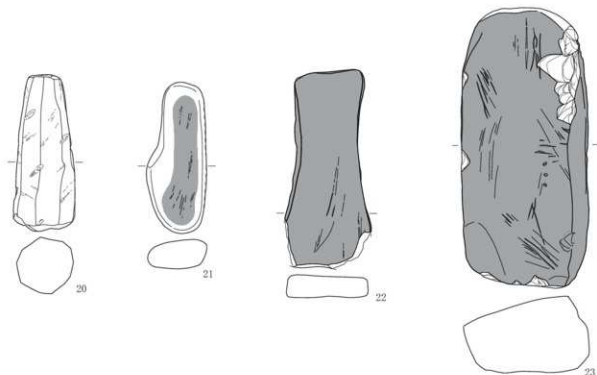
H4 号住居址掘方平面図



第10図 H4号住居址遺構図2・遺物図1



第 11 图 H4 号住居址遗物图 2



第12図 H4号住居址遺物図2

#### H6号住居址（第14図）

A-19グリッドに位置する。住居址北側だけの検出であるため全容は不明だが、検出範囲で南北1.58m、東西3.18mを測る。北東から南西に延びる畝状の擾乱により一部が破壊される。検出面から床面までの深さは0.18mである。住居床面はやや硬質で、ビットは検出されなかった。カマドは北側中央に位置し、粘土と角礫により構築されている。カマド中央に、2個の支脚石（4・5）が置かれていた。貼床は4cm～17cmの厚さが確認できる。

遺物は土師器・須恵器などが出土した。1は土師器の坏で、丸みのある底部にヘラケズリが施される。2は土師器の甕、3は須恵器の坏である。4・5はカマド中央から出土した支脚石である。本址は、出土遺物から8世紀以降の所産と考えたい。

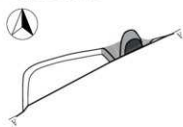
#### H7号住居址（第15・16図）

A-14・15グリッドに位置し、H13号住居址より新しい。全体に畝状の擾乱を受けるが、平面形は方形で、長軸5.34m、短軸5.06m、床面積27.02㎡を測る。検出面から床面までの深さは0.35mで、主軸はW-9°-Nである。住居床面は硬質で、5基のビットが検出された。P1～P4が柱穴と考えられる。カマドは北側中央に位置し、地山を削り出した上に粘土と角礫で構築している。貼床は9cm～22cmの厚さが確認でき、掘方ではビット1基が検出された。

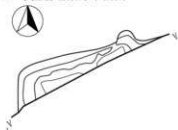
遺物は土師器などが出土した。1～15は土師器である。1～6は坏で、1・4～6は内面に黒色処理が施される。7は高坏で、内面に黒色処理が施される。8は内外面ともヘラミガキが施される鉢あるいは壺だろうか、住居床面から出土している。9・10は壺である。11～15は甕である。いずれも内面はヘラ状工具によるナデ、外面はヘラケズリが施されるが、12は内面にハケによる調整が認められる。16は土製の丸玉である。17は磨石である。18・19は鉄製品で、18は鎌の刃先と考えられる。19は長頸鐵で、頸部が折れ、基部が欠損する。本址は、出土遺物から7世紀の所産と考えられる。



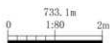
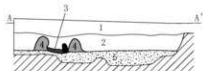
H5号住居址平面図



H5号住居址掘方平面図

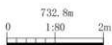
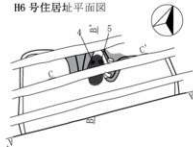


- 1 表土 現代の褐色土
- 2 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック含む。
- 3 5YR6/6 橙色土 焼土。
- 4 10YR4/1 褐灰色粘質土 黄褐色粘土含む。カマド構築土。
- 5 10YR4/1 褐灰色土 貼床、ロームブロック含む。

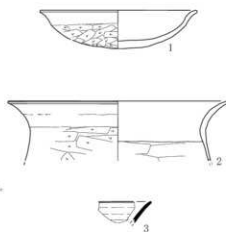


第13図 H5号住居址遺構図

H6号住居址平面図



- 1 表土 現代の褐色土
- 2 10YK3/1 黒褐色土  
灰黄褐色土ブロック多量含む。
- 3 10YK3/1 黒褐色土  
橙色粘土・焼土ブロック含む。
- 4 10YK3/1 黒褐色土  
ロームブロック多量含む。
- 5 5YR6/8 橙色土 焼土。
- 6 7.5YR7/3 に近い橙色粘土  
カマド構築土。
- 7 10YK3/1 黒褐色土  
橙色粘土ブロック含む。カマド構築土。
- 8 10YR4/1 褐灰色土  
貼床、ロームブロック含む。

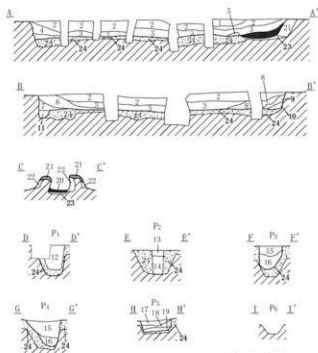
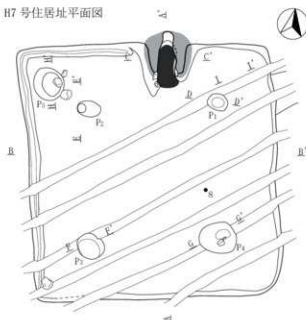


第14図 H6号住居址遺構図・遺物図

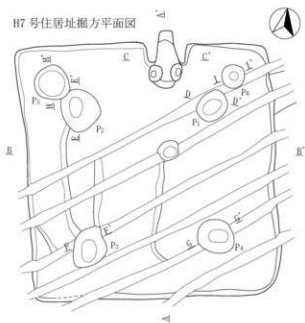
## H8号住居址 (第17図)

A・8・13グリッドに位置し、H3・H4号住居址より古い。東側をH3号住居址に、南北両側を擾乱により破壊され、住居址西側壁の一部が遺存するのみだったため、ほぼ掘方のみ残る状態であった。P1・P2が柱穴と考えられ、東西4.5m程度の規模と推定できる。カマドの有無は確認できなかった。遺物は出土しないが、H4号住居址より古いことから7世紀以前に位置づけられる。

H7号住居址平面図

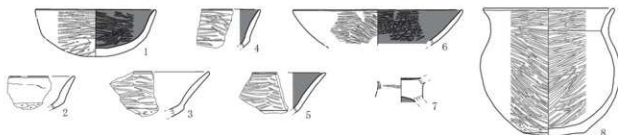


H7号住居址掘方平面図

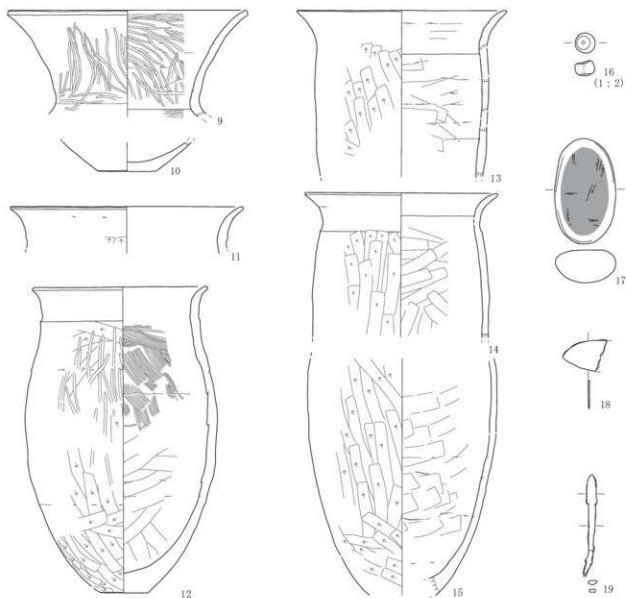


- 1 10YR4/1 褐色土 灰白色粘土ブロック含む。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色土 黄褐色土ブロック少量含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土ブロック含む。
- 4 10YR4/2 灰黄褐色土 黄褐色土ブロック多量含む。
- 5 5YR6/6 橙色粘土 焼土ブロック含む。
- 6 10YR6/4 に近い褐色土 黒褐色土ブロック含む。
- 7 10YR3/1 黒褐色土 黄褐色土ブロック含む。
- 8 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック多量含む。
- 9 10YR3/1 黒褐色土 黄褐色土ブロック含む。
- 10 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック少量含む。
- 11 10YR3/1 黒褐色土 しまり弱。
- 12 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック多量含む。
- 13 10YR4/1 褐色土 ロームブロック多量含む。
- 14 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 15 10YR4/1 褐色土 ロームブロック少量含む。
- 16 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック含む。
- 17 10YR3/1 黒褐色土 焼土ブロック含む。
- 18 10YR4/1 褐色土 焼土ブロック少量含む。
- 19 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック少量含む。
- 20 7.5YR7/6 橙色土 焼土。
- 21 N8/8 灰白色粘土 しまり強。カマド構築土。
- 22 7.5YR6/2 灰褐色土 しまり強。粘土ブロック含む。カマド構築土。
- 23 10YR3/1 黒褐色土 しまり弱。ロームブロック含む。
- 24 10YR4/1 褐色土 粘床。ロームブロック多量含む。

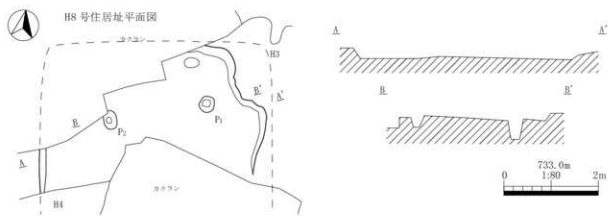
A-C: 732.7m  
D-I: 732.4m  
0 1:80 2m



第15図 H7号住居址遺構図・遺物図1



第16図 H7号住居址遺物図2



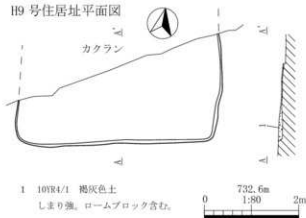
第17図 H8号住居址遺構図

### H9 号住居址 (第 18 図)

A-10 グリッドに位置する。全体が削平されているため、住居址南側の掘方のみが遺存する状況である。検出範囲では南北 2.16m 以上、東西 4.17m を測り、主軸は W-10°-N である。床面は削平されているが、掘方で 8 cm 以上の厚さの貼床があったことがわかる。ピットやカマドは検出されなかった。

遺物が出土していないため帰属時期は不明である。

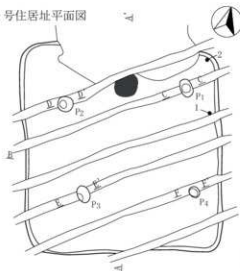
### H9 号住居址平面図



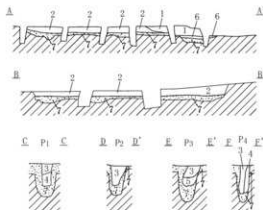
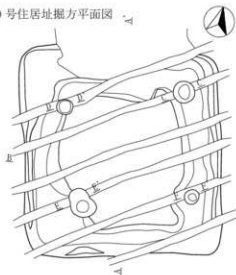
- 1 10YR4/1 褐灰色土  
しまり強。ロームブロック含む。

第 18 図 H9 号住居址遺構図

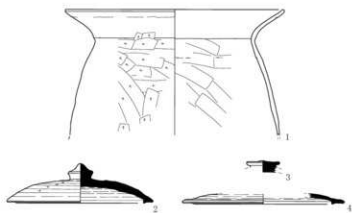
### H10 号住居址平面図



### H10 号住居址掘方平面図



- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 暗褐色土・ロームブロック含む。  
2 10YR4/2 灰黄褐色土 褐色粘土・焼土ブロック含む。  
3 10YR4/1 褐灰色土 ロームブロック少量含む。  
4 10YR4/1 褐灰色土 ロームブロック多量含む。  
5 10YR8/4 浅黄褐色土 黒褐色土ブロック少量含む。  
6 10YR3/1 黒褐色土 灰黄褐色土ブロック含む。  
7 10YR4/1 褐灰色土 貼床。しまり強。黒褐色土・ロームブロック多量含む。



第 19 図 H10 号住居址遺構図・遺物図

## H10 号住居址 (第 19 図)

A-20 グリッドに位置し、H15 号住居址より新しい。全体に畝状の攪乱を受け、北側中央は攪乱に破壊される。南北にわずかに長い方形を呈し、長軸 4.42m、短軸 4.00m、面積 17.68 m<sup>2</sup>を測る。検出面から床面までの深さは 0.21m で、主軸は W-16° -N である。カマドは北側中央に位置していたと考えられ、焼土のみ検出された。床面は硬質で、ビット 4 基が検出され、いずれも柱穴と考えられる。貼床は 4 cm ~ 14 cm の厚さが確認でき、掘方は住居址中央と北側が段状に高くなり、外周部が深く掘られる形状である。

遺物は土師器と須恵器が出土した。1 は土師器の甕である。2 ~ 3 は須恵器の蓋で、宝珠型のつまみで内面にかえりをもつ。2 は住居址北東角の床面から出土している。出土遺物から本址は 8 世紀前半の所産と考えられる。

## H11 号住居址 (第 20 図)

B-21 グリッドに位置し、南側が調査区外に延びる。全体に畝状の攪乱を受ける。検出範囲で南北 3.40m、東西 5.75m を測る。検出面から床面までの深さは 0.41m で、主軸は W-20° -N である。カマドは北側中央に位置し、袖部分を地山で削り出した上に、灰白色の良質な粘土と角礫で構築される。床面はカマド周辺の一部のみ硬質で、壁際は軟質である。貼床は 5 cm ~ 37 cm の厚さが確認でき、掘方は外周部が深く掘られる形状である。掘方で柱穴と考えられるビット 2 基が確認できた。

遺物は土師器などが出土した。1 は弥生土器の甕の頸部である。2 ~ 9 は土師器である。2 ~ 5 は坏で、内面に黒色処理が施される。半球状のもの、口縁部が外販するものがある。6 は鉢で、内面に黒色処理が施される。7・8 は甕である。9 は壺である。10 は編物石と考えられ、両側辺に加工される。11 は黒曜石の剥片に二次加工が施される。

出土遺物から、本址は 7 世紀の所産と考えられる。

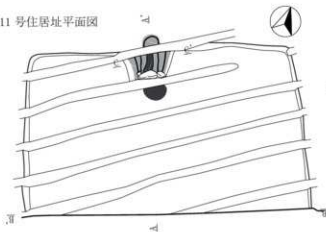
## H12 号住居址 (第 21・22 図)

B-16 グリッドに位置する。方形を呈し、南北 5.19m、東西 5.18m、床面積 26.88 m<sup>2</sup>を測る。検出面から床面までの深さは 0.33m で、主軸は W-27° -N である。カマドは北側中央に位置し、袖部分を地山で削り出した上に灰白色の良質な粘土で構築され、煙道が北側に張り出さない形態である。住居址中央から南側で、焼土・炭化物層 (4 層) が検出された。床面より上の堆積であるため、住居廃絶後の埋没過程で堆積したものと考えられる。住居床面は硬質で、5 基のビットが検出された。P1 ~ P4 が柱穴と考えられる。P3 付近では床面から角礫が検出されている。貼床は 8 cm ~ 46 cm の厚さが確認でき、掘方は中央が浅く、外周部が深く掘られる形状である。掘方ではビット 3 基が確認された。

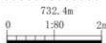
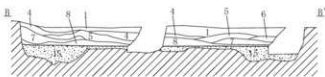
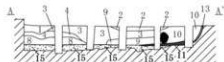
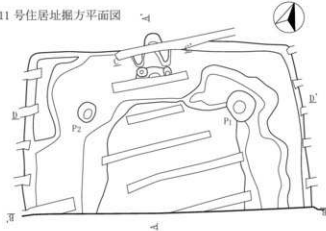
遺物は土師器・須恵器などが出土した。1 ~ 18 は土師器である。1 ~ 4 は坏で、1 ~ 3 は丸底から体部の稜をもって直線的に立上り、内面黒色処理が施される。4 は平底で、外面底部までミガキが施される。内面には本来黒色処理が施されていた可能性がある。6・7 は高坏で、内面に黒色処理が施される。8 ~ 17 は甕である。8・9 は器高が低く、胴部最大径と口径が同程度となる。10 ~ 17 は長胴の甕で、胴部中程から下半に最大径をもつ。外面調整はヘラケズリのものが主体で、12 はハケによる調整、13 はヘラミガキが施される。18 は甕の底部である。19・20 は須恵器の坏で、やや内傾する立上りをもつ。21 ~ 29 は石器で、21 は回石、22 ~ 29 は編物石である。30 は鉄製の鎌である。

本址は出土遺物から 6 世紀後半の所産と考えられる。

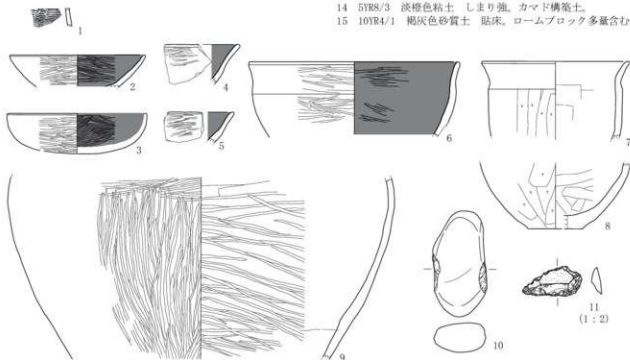
H11 号住居址平面図



H11 号住居址掘方平面図

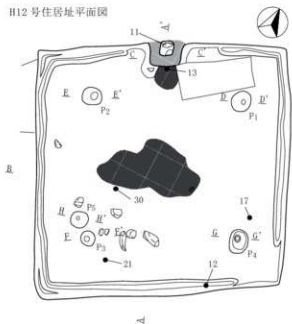


- 1 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック多量含む。
- 2 10YR4/1 褐灰色土 灰白色粘土ブロック含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 4 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック多量含む。
- 6 10YR3/1 黒褐色砂質土 ロームブロック少量含む。
- 7 10YR4/1 褐灰色砂質土 ロームブロック少量含む。
- 8 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック少量含む。
- 9 5YR8/2 灰白色粘土 灰黄褐色土含む。
- 10 10YR4/2 灰黄褐色土 灰白色粘土ブロック・焼土含む。
- 11 5YR7/3 にぶい橙色土 焼土。
- 12 10YR4/1 褐灰色土 しまり強い、カマド構築土。
- 13 5YR8/1 灰白色粘土 しまり強い、カマド構築土。
- 14 5YR8/3 淡褐色粘土 しまり強い、カマド構築土。
- 15 10YR4/1 褐灰色砂質土 貼床。ロームブロック多量含む。

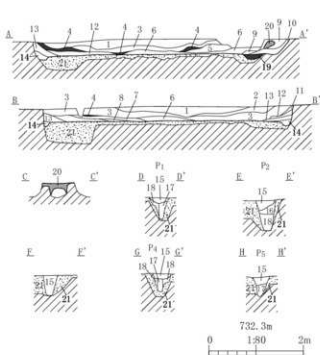
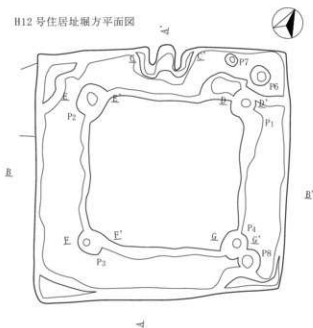


第20図 H11号住居址遺構図・遺物図

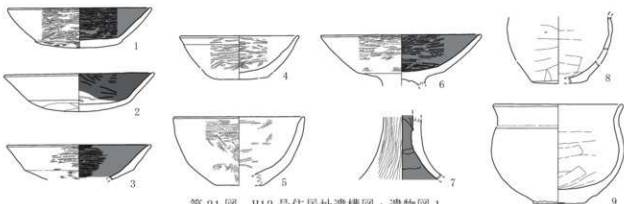
H12号住居址平面図



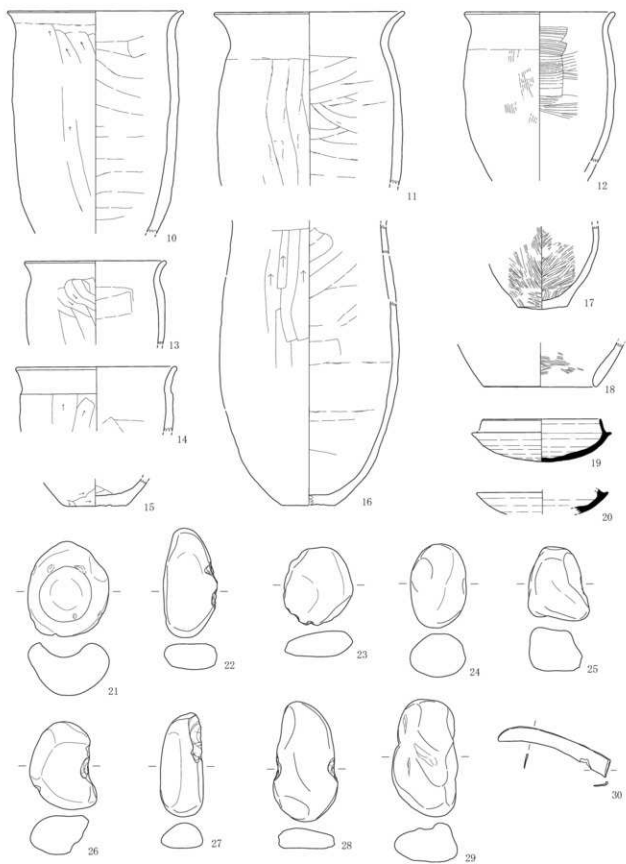
H12号住居址縦方平面図



- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 炭化物少量含む。
- 2 10YR4/1 褐灰色土 炭化物少量含む。
- 3 10YR6/3 にぶい褐色土 炭化物・ロームブロック少量含む。
- 4 10YR4/1 褐灰色土 橙色土ブロックや炭化物多量含む。
- 5 10YR5/2 灰黄褐色土 ロームブロック少量・炭化物多量含む。
- 6 10YR6/4 にぶい黄褐色土 焼土・炭化物少量含む。
- 7 10YR4/1 褐灰色土 橙色土ブロック多量含む。
- 8 10YR5/3 にぶい黄褐色土 炭化物少量含む。
- 9 10YR4/2 灰黄褐色土 炭化物・灰白色粘土ブロック含む。
- 10 10YR4/2 灰黄褐色土 灰多量含む。焼土ブロック含む。
- 11 10YR4/1 褐灰色土 ロームブロック少量含む。
- 12 10YR6/2 灰黄褐色土 褐灰色土ブロック含む。
- 13 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 14 10YR6/2 灰黄褐色土 ロームブロック少量含む。
- 15 10YR4/2 灰黄褐色土 黒褐色土ブロック含む。
- 16 10YR3/1 黒褐色土 黄褐色土ブロック含む。
- 17 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり弱。柱痕。
- 18 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック多量含む。
- 19 7.5YR/6 橙色シルト質土 焼土・灰層。
- 20 10YR8/1 灰白色粘土 表面被熱。カマド構築土。
- 21 10YR4/1 褐灰色土 黒褐色土・ロームブロック多量含む。



第21図 H12号住居址遺構図・遺物図1



第 22 图 H12 号住居址遺物图 2



### H13号住居址（第23・24図）

A-14グリッドに位置し、H7号住居址より古い。北西部をH7号住居址に壊され、全体に畝状の擾乱を受ける。方形を呈すると考えられ、南北5.95m、東西5.93m、床面積は推定35.28㎡を測る。検出面から床面までの深さは0.33mで、主軸はW-3°-Nである。カマドはH7号住居址に壊される。住居床面は硬質で、3基のピット（P1・P3・P4）が検出された。H7号住居址掘方で検出されたP2を加えたP1～P4が柱穴と考えられる。住居址南側床面では礎が出土した。貼床は6cm～24cmの厚さが確認でき、掘方は中央が浅く、外周部が深く掘られる形状である。掘方ではピット1基が確認された。

遺物は土師器・須恵器などが出土した。1は縄文土器の深鉢の口縁部である。早期の押型文土器と考えられ、楕円文が施される。2～17は土師器である。2～5は坏で、1・2は丸底から体部の稜をもって立上り、4は半球状を呈する。5は須恵器坏身を模したもので、内面には放射状の暗文が施される。6は鉢で、内面に黒色処理が施される。7～14は甕、15～17は壺である。18は須恵器の蓋である。19は黒曜石製の石鏃である。20・21は磨石である。20は端部の使用面に赤色顔料とみられる付着物が認められる。22～37は編物石と考えられ、住居址南東部の床面からまとまって出土した。

本址は出土遺物から7世紀の所産と考えられる。

### H14号住居址（第25・26図）

B-6グリッドに位置し、H18号住居址より新しい。上部を削平されるが、方形を呈し、南北5.44m、東西5.55m、床面積30.19㎡を測る。検出面から床面までの深さは0.08mで、主軸はW-10°-Nである。カマドは削平され残っていないが、地山ローム層が被熱していることと、カマドを造り出すためと考えられる掘方が認められることから、北側中央にカマドがあったと考えられる。床面は硬質で、ピットが4基検出された。いずれも柱穴と考えられる。貼床は住居址外周部のみ27cmの厚さで確認でき、中央部は地山ローム層を床面とする。掘方はカマド部分と中央を残して外周部が深く掘られる形状である。掘方ではピット3基が検出された。

遺物は土師器・須恵器などが出土した。1～3は土師器である。1は鉢で、内面黒色処理が施される。2・3は甕である。4・5は須恵器で、4は坏、5は有台坏である。6は灰釉陶器の碗である。7は磨石、8～14は編物石と考えられる。15は滑石製の石製模造品である。住居址北東側の埋土より出土した。

本址は、出土遺物から9世紀の所産と考えられる。

### H15号住居址（第27図）

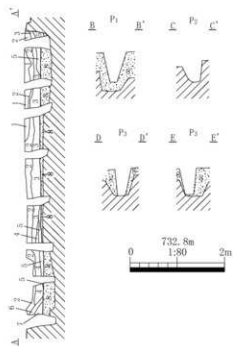
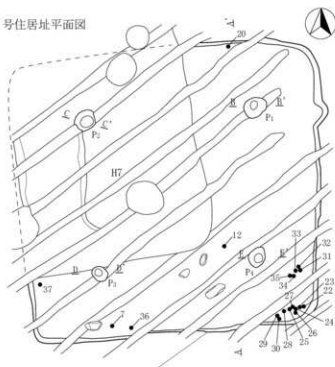
B-11・16グリッドに位置し、H10号住居址より古い。東側が擾乱を受け破壊されるため全容は不明だが、南北3.43m、東西2.18mを測る。検出面から床面までの深さは0.19mで、主軸はW-16°-Nである。カマドは北側中央に位置するが、煙道部が遺存するのみで構造は不明である。床面は硬質で、3cm～8cmの貼床が認められる。掘方は外周部分が深く掘られる形状であり、掘方からピット1基が検出された。遺物は土師器の甕が出土した。

本址はH10号住居址との新旧関係から8世紀前半に位置付けたい。

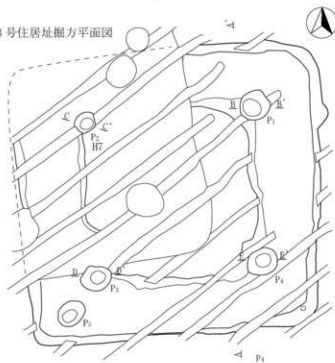
### H16号住居址（第28図）

B-17グリッドに位置する。東西に長い長方形を呈し、長軸3.24m、短軸2.55m、床面積8.26㎡を測る。検出面から床面までの深さは0.20mで、主軸はW-27°-Nである。カマドは北側中央に位置し、地山ローム層を削り出した袖部の上に、灰白色の良質な粘土を用いて構築される。床面は硬質で、北寄りに2基のピットが検出され、いずれも柱穴と考えられる。貼床は2cm～15cmの厚さで認めら、掘

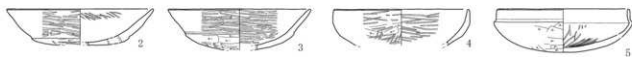
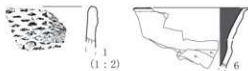
H13号住居址平面図



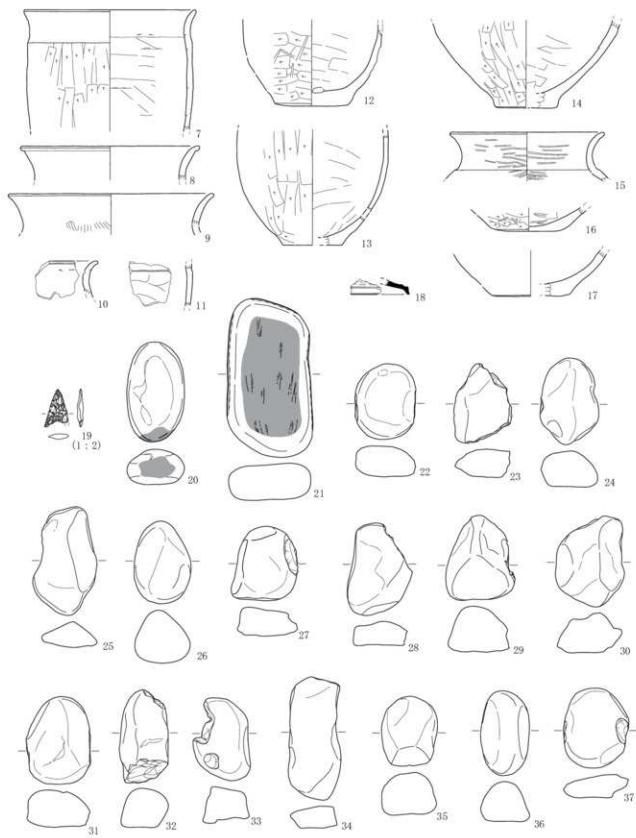
H13号住居址掘方平面図



- 1 10YR4/1 褐灰色土 灰黄褐色土ブロック含む。
- 2 10YR4/1 褐灰色土 黒色土ブロック多量含む。
- 3 10YR4/2 灰黄褐色土  
黒褐色土・ロームブロック少量含む。
- 4 10YR4/2 灰黄褐色土・ロームブロック少量含む。
- 5 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 6 10YR4/1 褐灰色土 ロームブロック多量含む。
- 7 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック多量含む。
- 8 10YR3/1 黒褐色土 粘泥。  
灰黄褐色土・ロームブロック多量含む。

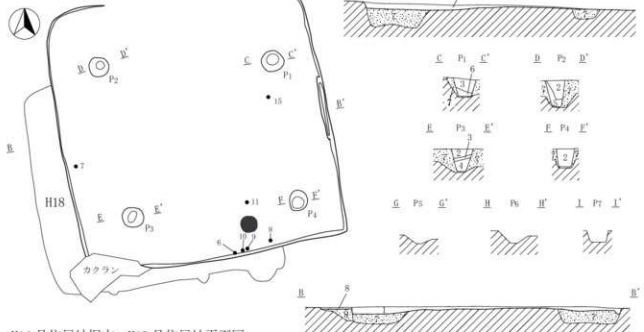


第23図 H13号住居址遺構図・遺物図1

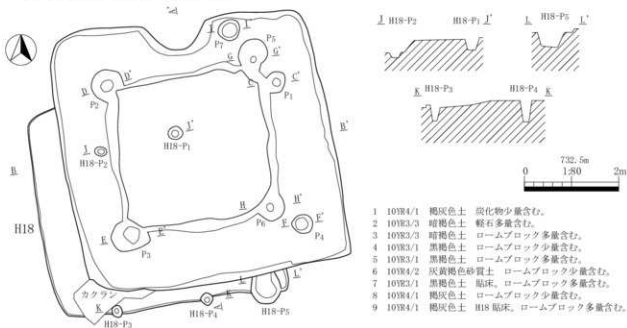


第 24 图 H13 号住居址遗物图 2

H14 号住居址平面図



H14 号住居址掘方・H18 号住居址平面図

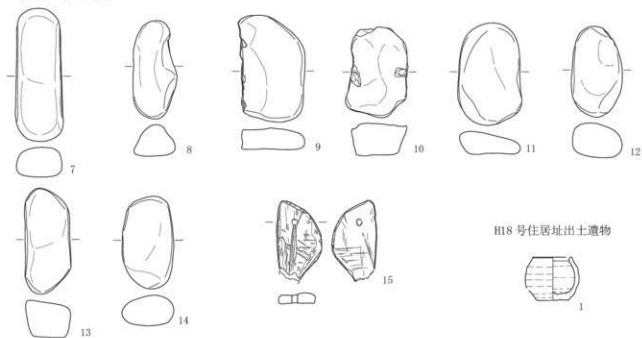


H14 号住居址出土遺物



第 25 図 H14 号・18 号住居址遺構図・遺物図 1

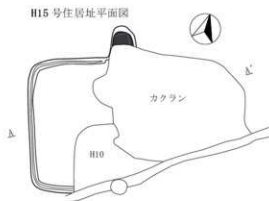
H14号住居址出土遺物



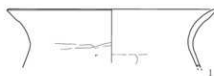
H18号住居址出土遺物

第26図 H14号・18号住居址遺物図2

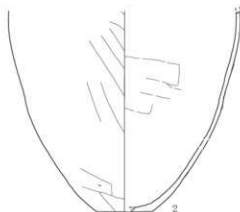
H15号住居址平面図



- 1 10YR3/3 暗褐色土 黒色土・ロームブロック多量含む。
- 2 10YR4/1 褐灰色土 粘床。黒褐色土・ロームブロック多量含む。

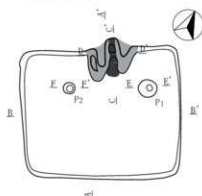


H15号住居址掘方平面図

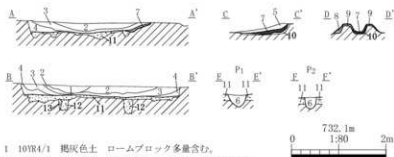
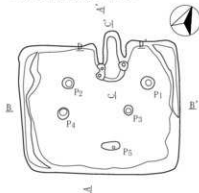


第27図 H15号住居址遺構図・遺物図

H16 号住居址平面図



H16 号住居址掘方平面図



- 1 10TR4/1 褐灰色土 ロームブロック多量含む。
- 2 10TR4/1 褐灰色土 黒褐色土・ロームブロック少量含む。
- 3 10TR4/2 灰黄褐色土 黒褐色土ブロック少量含む。
- 4 10TR3/1 黒褐色シルト質土
- 5 10TR5/1 褐灰色粘質土 焼土・灰白色粘土ブロック多量含む。
- 6 10TR4/1 褐灰色土 しまり弱。黒褐色土・ロームブロック少量含む。
- 7 10TR4/1 褐灰色土 焼土層。
- 8 10TR4/1 褐灰色粘土 カマド構築土。灰白色粘土ブロック含む。
- 9 10TR8/1 灰白色粘土 カマド構築土。
- 10 10TR4/1 褐灰色土 ロームブロック含む。
- 11 10TR4/1 褐灰色土 陥床。しまり強。黒褐色土・ロームブロック多量含む。
- 12 10TR3/3 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 13 10TR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック多量含む。

第 28 図 H16 号住居址遺構図・遺物図

方では 3 基のピットが検出された。P3・P4 が柱穴となり、柱替えの痕跡と考えられる。

遺物は土師器と須恵器が出土した。1 は土師器の甕、2 は須恵器の坏である。これらの遺物から、本址は 6 世紀後半から 7 世紀の所産と考えられる。

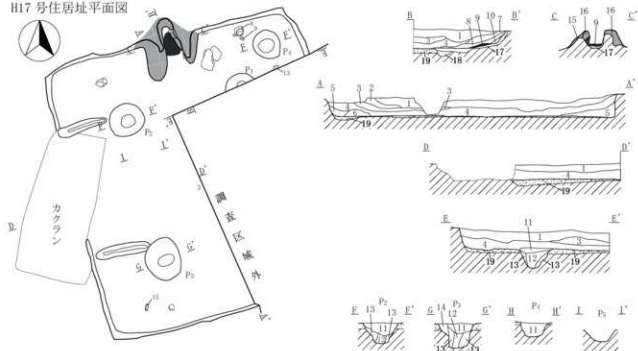
H17 号住居址 (第 29 図)

C-3 グリッドに位置し、F1 号掘立柱建物より新しい。南東部が調査区外となるが、方形を呈する住居址と考えられる。検出範囲で南北 5.86m、東西 5.37m、床面積は推定 31.47 m<sup>2</sup> を測る。検出面から床面までの深さは 0.40m で、主軸は W-14° - N である。カマドは北側中央に位置し、地山ローム層を削り出した袖部に、灰白色の良質な粘土と角礫を用いて築かれる。床面は硬質で、ピット 4 基と間仕切溝 2 条が検出された。P1 ~ P3 が柱穴と考えられ、P2・P3 から壁に向かって間仕切溝が延びる。貼床は 1 cm ~ 12 cm の厚さで確認できるが、住居中央から南側では薄く確認できるのみである。掘方は西側の壁際に段状に浅くなる形状で、ピット 1 基が検出された。

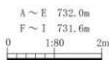
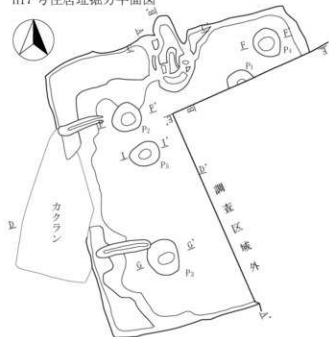
遺物 7 は土師器と須恵器などが出土した。1 ~ 9 は土師器である。1 ~ 4 は坏で、1 ~ 3 は丸底で体部に稜をもつ。3 は内面黒色処理が施される。4 は須恵器坏身を模したものである。5 は鉢で、内面黒色処理が施される。6 は甕で、底部に葉脈圧痕が認められる。7 ~ 9 は壺で、8・9 は住居址北東の床面から出土した。10・11 は須恵器で、10 が坏、11 は蓋のない甕の口縁部である。12 は磨石、13 ~ 15 は編物石と考えられる。

出土遺物から、本址は 7 世紀の所産と考えられる。

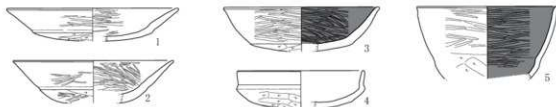
H17 号住居址平面図



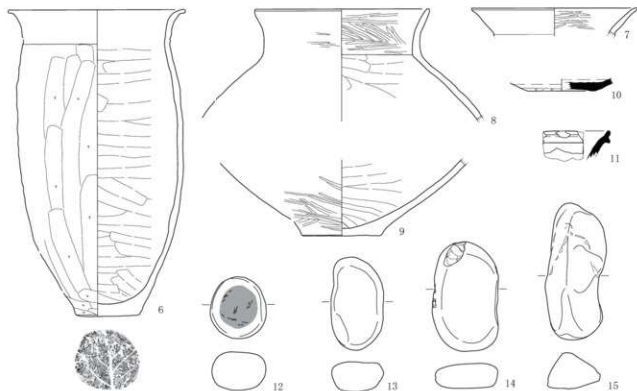
H17 号住居址掘方平面図



- 1 10YR4/1 褐灰色土 黒褐色土ブロック多量含む。
- 2 10YR4/1 褐灰色土 浅黄褐色土ブロック含む。
- 3 10YR7/4 にぶい黄褐色粘質土 褐灰色土ブロック含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土・灰黄褐色土ブロック含む。
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト質土 褐灰色土ブロック含む。
- 6 7.5YR7/6 橙色粘土
- 7 10YR5/1 褐灰色土 浅橙色粘土ブロック多量含む。
- 8 10YR3/1 黒褐色土 焼土ブロック・炭化物多量含む。
- 9 10YR2/1 黒色土 焼土層。
- 10 10YR4/1 褐灰色土 灰白色粘土ブロック含む。
- 11 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック含む。
- 12 10YR3/1 黒褐色土 しまり弱。灰黄褐色土ブロック含む。
- 13 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック多量含む。
- 14 10YR7/4 にぶい黄褐色土 ロームブロック多量含む。
- 15 10YR4/1 褐灰色土 しまり強。カマド構築土。
- 16 10YR8/1 灰白色粘土 しまり強。カマド構築土。
- 17 10YR3/1 黒褐色土 カマド構築土。炭化物・焼土ブロック多量含む。
- 18 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック多量含む。
- 19 10YR4/1 褐灰色土 貼床。ロームブロック多量含む。



第 29 図 H17 号住居址遺構図・遺物図 1



第30図 H17号住居址遺物図2

#### H18号住居址 (第25・26図)

B-6・11グリッドに位置し、H14号住居址より古い。東側をH14号住居址により壊されるため全容は不明だが、検出範囲では南北4.42m、東西4.74mを測り、方形を呈すると考えられる。検出面から床面までの深さは0.03mで、主軸はW-9°-Nである。カマドの有無は不明である。床面は硬質で、H14号住居址掘方で検出されたビットとあわせ5基のビットが検出された。P1～P4が柱穴と考えられ、南側のP3・P4は壁面に位置する。貼床は25cmの厚さが確認できる。

遺物は掘方から土師器が出土した。1は小型で無頭の壺と考えられる。本址の帰属時期については、8世紀～9世紀と捉えたい。

#### H19号住居址 (第31・32図)

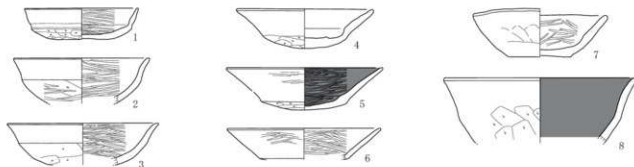
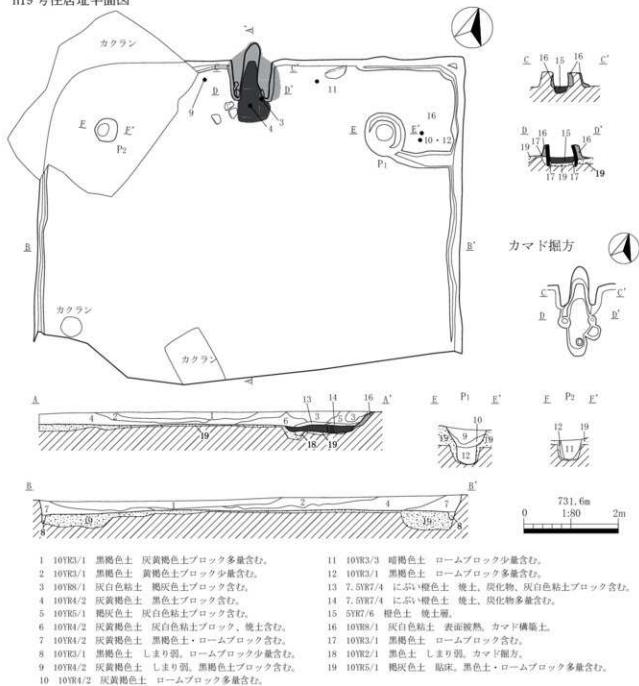
C-9・10グリッドに位置し、南側が調査区外に延び、北西部が擾乱を受け壊される。全容は不明だが、検出範囲では南北6.68m、東西8.70mを測る。検出面から床面までの深さは0.35mで、主軸はW-16°-Nである。カマドは北側中央に位置し、地山ローム層を削り出した袖部に、灰白色の良質な粘土と板状の扁平礫を用いて構築している。床面は硬質で、ビット2基と間仕切溝1条が検出された。ビット2基は柱穴と考えられる。貼床は3cm～40cmの厚さで確認でき、掘方は中央部とカマド周辺が浅く、外周部が深く掘られる形状である。

遺物は土師器と須恵器などが出土した。1～12は土師器である。1～7は坏で、1～6は丸底で体部に稜をもち、5は内面黒色処理が施される。7は平底である。8は鉢で、口縁部が弱く外反し、内面黒色処理が施される。9・10は甕、11・12は壺である。13・14は須恵器で、13は蓋、14は甕の体部と考えられるタタキ目がみられる。15・16は編物石と考えられる。

出土遺物から、本誌は7世紀～8世紀前半の所産と考えられる。

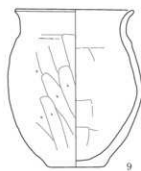
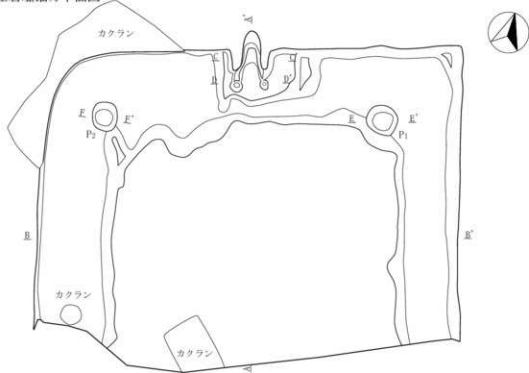


H19 号住居址平面図

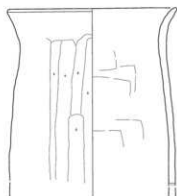


第31図 H19号住居址遺構図1・遺物図1

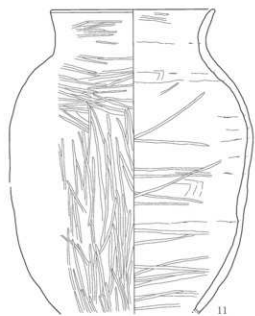
H19 号住居址掘方平面図



9



10



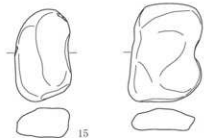
11



13



14



15



16



12

第 32 図 H19 号住居址遺構図 2・遺物図 2

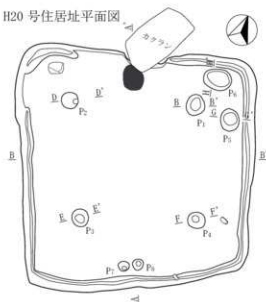
## H20 号住居址 (第 33 図)

C-4・5 グリッドに位置する。方形を呈し、南北 4.82m、東西 4.68m、床面積 22.55 m<sup>2</sup> を測る。検出面から床面までの深さは 0.30m で、主軸は W-19° -N である。カマドは北側中央に位置すると考えられる。攪乱を受け大部分が破壊されるが、地山が内側に張り出し、わずかだが焼土が確認できる。床面は硬質で、8 基のピットが検出された。P1 ~ P4 が柱穴、P7・P8 は入口施設と考えられる。貼床は 4 ~ 20 cm の厚さで確認でき、掘方は中央部が浅く、外周部が深く掘られる形状である。掘方ではピット 1 基が検出された。

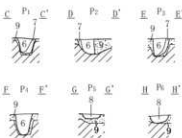
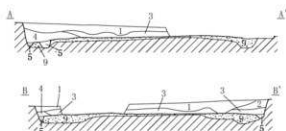
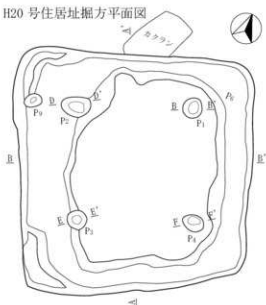
遺物は土師器と須恵器が出土した。1・2 は土師器である。1 は蓋、2 は高坏の脚部で、屈曲気味に開く。3・4 は須恵器で、3 は坏、4 は壺の口縁部である。

これらの出土遺物から本址は 8 世紀の所産と考えたい。

H20 号住居址平面図



H20 号住居址掘方平面図



- 731.6m  
0 1:80 2m
- 1 10YR3/1 黒褐色土 暗褐色土ブロック含む。
  - 2 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック多量含む。
  - 3 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
  - 4 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック少量含む。
  - 5 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり肌、黒色土ブロック含む。
  - 6 10YR4/2 灰黄褐色土 しまり肌、黄褐色土ブロック含む。
  - 7 10YR3/3 暗褐色土 黒色土・ロームブロック含む。
  - 8 10YR3/1 黒褐色土 黄褐色土ブロック含む。
  - 9 7.5YR4/3 褐色土 貼床、ロームブロック多量含む。



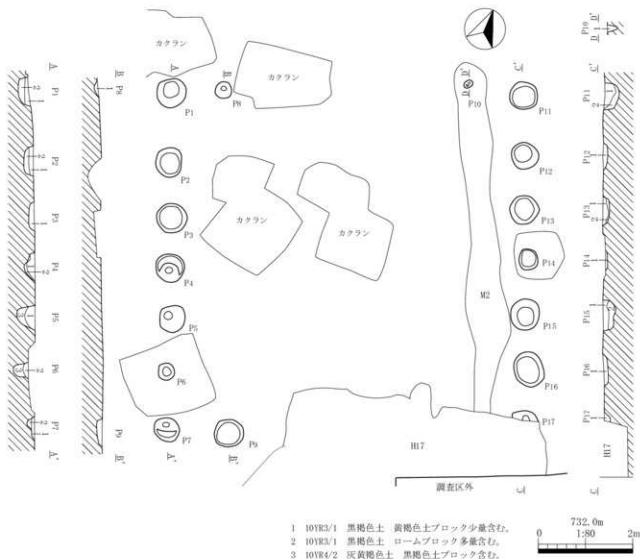
第 33 図 H20 号住居址遺構図・遺物図

## 第2節 掘立柱建物址

### F1号掘立柱建物址（第34図）

B-23・C-3グリッドに位置し、H17号住居址より古く、M2号溝址より新しい。南側がH17号住居址に壊されるため全容は不明だが、出入口を南側と仮定すると、桁行7.46m、梁行7.19m、面積53.63㎡を測る方形の側柱建物址である。桁行は3間、柱間は1.10～5.20mで中央が広くなる。梁行は6間で柱間は1.05～1.55mを測る。柱穴は円形で深さ8～37cm、主軸はW-22° - Nである。

遺物は土師器の小破片が出土したが、図化し得るものはない。H17号住居址との新旧関係から7世紀以前の所産と考えられる。



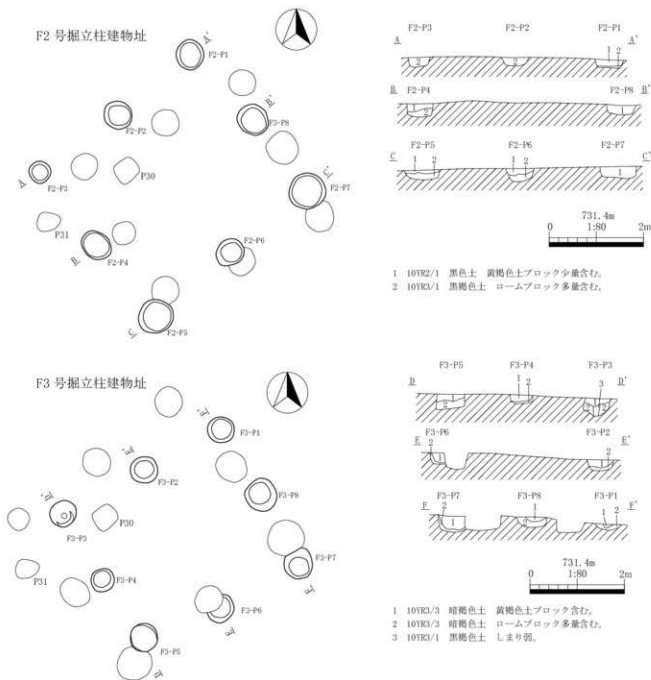
第34図 F1号掘立柱建物址遺構図

### F2号掘立柱建物址（第35図）

D-1グリッドに位置し、F3号掘立柱建物址より新しい。桁行3間、梁行3間、面積16.35㎡を測る方形の側柱建物址である。出入口を南側と仮定すると、桁行4.14mで柱間は2.00～2.07m、梁行3.95m

で柱間は1.92～1.97mを測る。柱穴は円形で深さ18～28cm、主軸はW-39°-Nである。

遺物は土師器の小破片が出土したが、遺構の帰属時期は不明である。F3号住居址から建替えられたものと考えられる。



第35図 F2・F3号掘立柱建物址遺構図

### F3号掘立柱建物址 (第35図)

D-1グリッドに位置し、F2号掘立柱建物址より古い。桁行3間、梁行3間、面積12.47㎡を測る方形の側柱建物址である。出入口を南側と仮定すると、桁行3.77mで柱間は1.74～1.95m、梁行3.31m

で柱間は1.51～1.69mを測る。柱穴は円形で深さ13～37cm、主軸はW-32°-Nを測る。

遺物は土師器の小破片が出土したが、遺構の帰属時期は不明である。F2号住居址へ建替えが行われたものと考えられる。

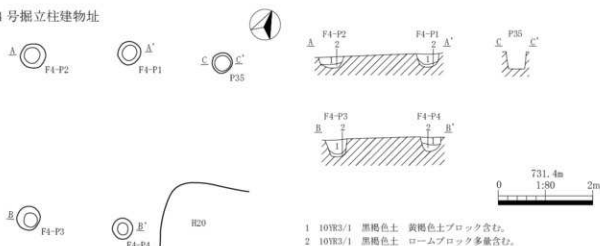
#### F4号掘立柱建物址（第36図）

B-25、C-5グリッドに位置する。桁行1間、梁行1間、を測る長方形の側柱建物址、あるいは東側のP35を柱穴と捉え、南東側にH20に破壊された桁行2間の側柱建物の可能性も考えられる。

1間×1間の建物と仮定すると、南北の桁行が3.71m、東西の梁行が1.97m、面積7.30㎡を測り、主軸はW-24°-Nである。2間×1間の建物と仮定すると、東西の桁行が4.00m、南北の梁行が3.71m、面積14.84㎡を測る。柱穴は円形で深さ24～36cmを測る。

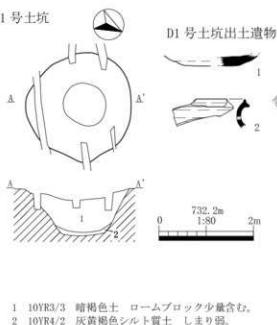
遺物が出土していないため本址の帰属時期は不明である。

#### F4号掘立柱建物址



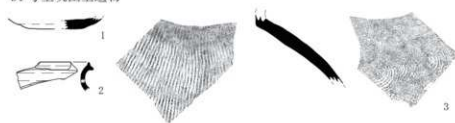
第36図 F4号掘立柱建物址遺構図

#### D1号土坑

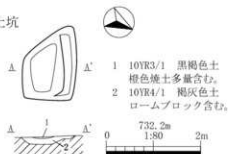


第37図 D1・D2号土坑遺構図・遺物図

#### D1号土坑出土遺物



#### D2号土坑



### 第3節 土坑

#### D1号土坑 (第37図)

B-16 グリッドに位置する。長軸 2.28m、短軸 2.24m を測る円形の土坑である。断面台形を呈し、検出面から底面までの深さは 0.99m である。

遺物は須恵器が出土した。1 は坏の底部である。ヘラ切り後にロクロナデが施される。2 は甕の口縁部と考えられる。3 は甕の体部で、内外面にタタキ目がみられる。出土遺物から、7 世紀以降の所産と考えたい。

#### D2号土坑 (第37図)

B-12 グリッドに位置する。長軸 1.56m、短軸 1.13m を測る台形の土坑である。北側に段をもち、断面台形を呈する。検出面から底面までの深さは 0.16m、主軸は W-29° -N である。上部を削平されていると考えられ、検出面で土坑中央にわずかに焼土層が確認できた。

遺物が出土していないため帰属時期は不明である。

### 第4節 溝址

#### M1号溝址 (第38図)

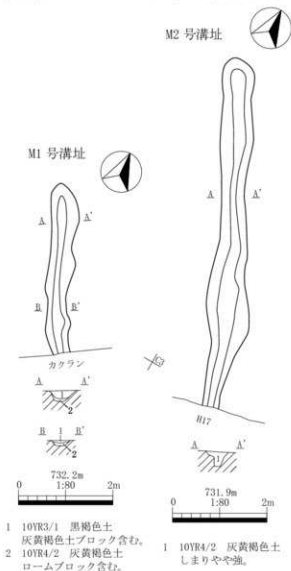
B-17 グリッドに位置する。南側が攪乱を受け破壊されるため全容は不明だが、検出範囲で長軸 3.58m、短軸 0.37 ~ 0.58m を測る。断面は台形を呈し、検出面からの深さは 0.11 ~ 0.22m、主軸は W-25° -N である。

本址の帰属時期を特定し得る遺物は出土していないが、主軸方向が竪穴住居址と同じことから、古墳時代後期から平安時代の集落址に伴う溝と考えられる。

#### M2号溝址 (第38図)

B-23 グリッドに位置し、F1号掘立柱建物址及びH17号住居址より古い。南側がH17号住居址に破壊されるため全容は不明だが、検出範囲で長軸 9.24m、短軸 0.40 ~ 1.14m を測る。断面は台形を呈し、検出面からの深さは 0.37m、主軸は W-25° -N である。

本址の帰属時期を特定し得る遺物は出土していないが、M1号溝址同様、古墳時代後期から平安時代の集落址に伴う溝と考えられる。



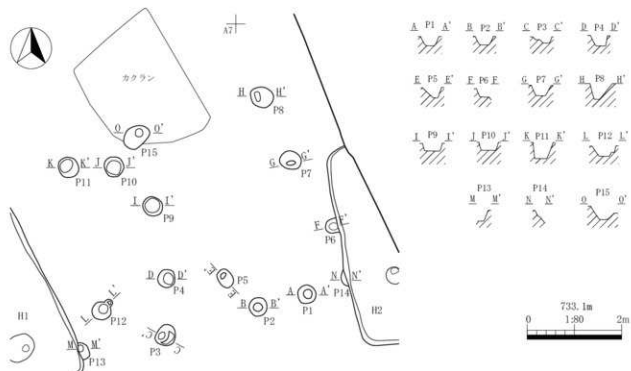
第38図 M1・M2号溝址遺構図

## 第5節 ビット

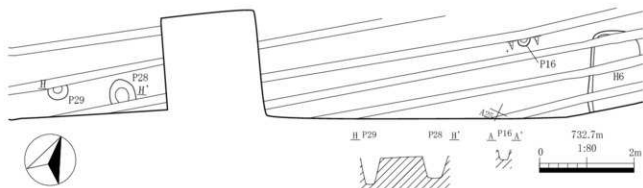
35基のビットが検出された（第40～42図）。調査区外に続く掘立柱建物址の一部だけが検出されている可能性もあるが、ここでは単独ビットとする。調査区全域でビットが検出されているが、東端のA7グリッド周辺の一群（P1からP15）、調査区中央南側のA20～B21グリッドの一群（P16・P28・P29）、調査区中央北側のA15グリッド周辺の一群（P17～P27）、調査区西端のD6グリッド周辺の一群（P30～P34）に分けられる。

他遺構と切り合うものは少なく、P13はH1号住居址より古く、P6及びP14はH2号住居址より古い。ビットの平面形は円形を呈するものが大半だが、P30のように方形を呈するものも認められる。検出面から底面までの深さは10～30cm程度のものがほとんどだが、P22・P28・P29は50cm以上の深さがある。調査区北東側、H9号住居址から東側は、カクラン、削平が認められるため、浅いビットは削平されてしまっている可能性がある。

ビットからは土師器・須恵器の小破片が出土しているが、混入品と考えられる。各ビットの帰属時期は不明だが、住居址同様の時期、古墳時代後期から平安時代までの集落跡に伴う遺構と考えられる。

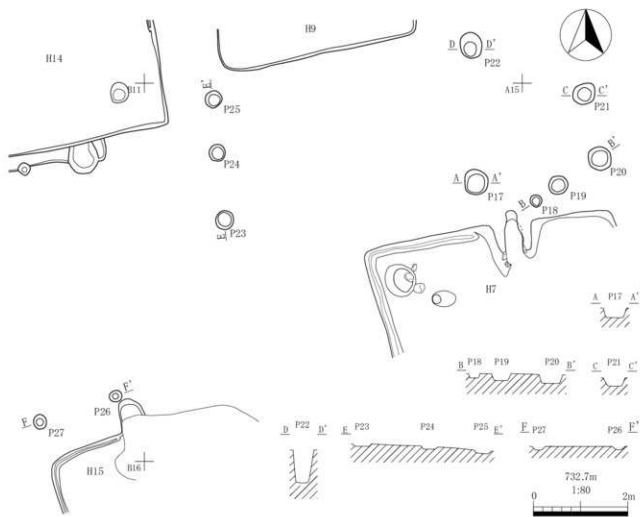


第39図 ビット遺構図1

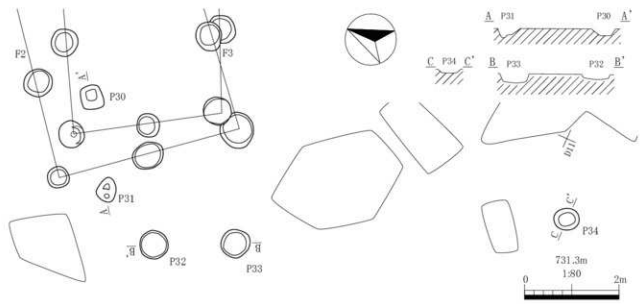


第40図 ビット遺構図2





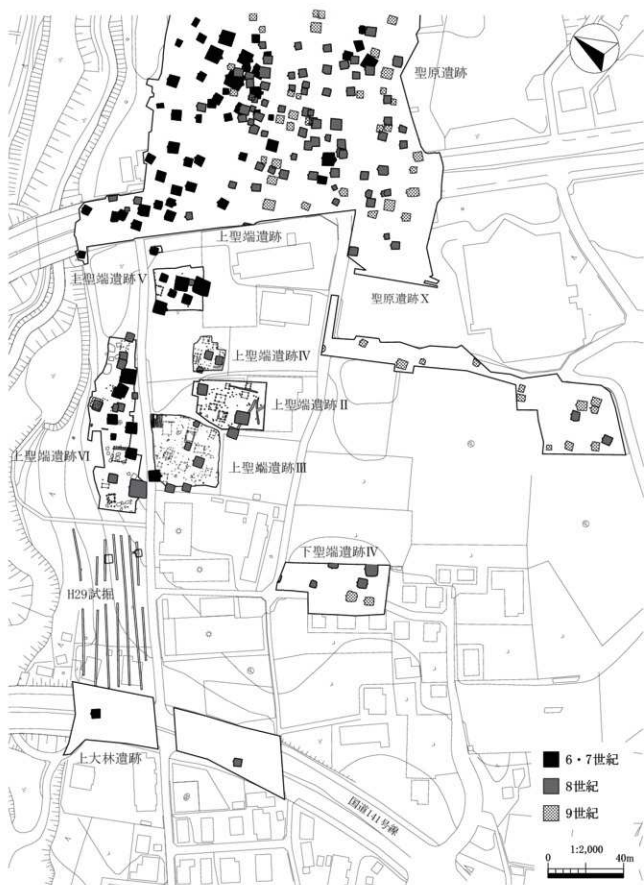
第41図 ビット造構図3



第42図 ビット造構図4



第 43 図 調査区全体図



第44図 周辺の住居址分布図

## 第IV章 まとめ

本調査区では20軒の堅穴住居址が検出され、出土遺物や新旧関係から、6世紀後半から9世紀の間に位置づけられる。本遺跡周辺では、聖原遺跡をはじめとして上聖端遺跡、下聖端遺跡、上大林遺跡などで集落跡が確認されている。開発事業ごとに遺跡名を付しているため名称は異なるが、いずれも濁川左岸台地上に広く展開する同一集落と考えられる。聖原遺跡の調査成果及び時期区分によって、集落の変遷を概観したい。

聖原遺跡では6世紀前半の堅穴住居址が3軒検出されているが、本調査区周辺ではこの時期の住居址は確認されていない。6世紀後半になると様相が一変し、100軒を超える住居址が確認され、計画的に集落が形成されたことを示している。7世紀には住居址数は減少するが居住域が拡大する様相が捉えられている。本調査区においてはH4・H7・H8・H11・H12・H13・H16・H17の8軒が6～7世紀に位置づけられ、隣接する上聖端遺跡Ⅲ、上聖端遺跡Ⅴ、南側の上大林遺跡で同時期の住居址が確認されている。上聖端遺跡Ⅴの7軒、上聖端遺跡Ⅲの1軒、上大林遺跡の1軒及び本遺跡H12が6世紀代に位置づけられ、東西に帯状に形成された居住域の西端部にあたると考えられる。本遺跡H4・H7・H8・H11・H13・H16・H17は7世紀代と考えられるが、居住域が拡大する中で形成されたものと考えられる。H19号住居址についても7世紀代の所産である可能性がある。

聖原遺跡においては、8世紀になると7世紀の居住域を踏襲しながらも、東西に伸びる十数軒程度のみとなり変遷する状況が捉えられる。本調査区ではH1・H2・H3・H6・H10・H15・H18・H19・H20の9軒が8世紀に位置づけられる。上聖端遺跡Ⅴで1軒、上聖端遺跡Ⅳで3軒、上聖端遺跡Ⅱで3軒、上聖端遺跡Ⅲで5軒、下聖端遺跡の5軒、上大林遺跡の1軒が同時期に位置づけられ、本遺跡周辺においては7世紀よりも住居数は増加している。集落が西側に拡大した結果と考えられ、本遺跡周辺を一つのまとまりとして捉えることも可能かもしれない。

9世紀になると、聖原遺跡では集落の最盛期を過ぎ、縮小傾向が伺える。住居址のまとまりも東西方向から南北に伸びるまとまりとなるようである。本遺跡ではH14の1軒が9世紀に位置づけられる。周辺では下聖端遺跡Ⅳの2軒、聖原遺跡Ⅹの13軒が同時期に位置づけられる。本遺跡周辺では住居が減少し、居住域が南に移るようである。本遺跡周辺では10世紀以降の住居址が検出されていないことから、集落は東側に縮小していったと考えられる。

以上、聖原遺跡の成果を基に、住居址の分布から集落の変遷を概観したが、6・7世紀の形成期、8世紀の拡大最盛期、9世紀以降の衰退期と大まかに捉えるならば、本調査区における住居址の消長もこれに符合する。本調査区より西側の状況に不明確な部分はあるが、西側隣接地における平成29年度の試掘調査結果では、2軒の住居址が確認されるのみであり、東側に比べ遺構密度が低い。本調査区の出土遺物をみても、一般的な日用品のみで、東側の聖原遺跡で出土しているような官衙的あるいは公的性格を有する遺物は出土していない。このことから、本調査区周辺は聖原遺跡を中心とする大規模集落の西端部にあたると考えられるが、聖原遺跡同様、佐久郡街に関わる人々が居住していた可能性が考えられる。

### 参考文献

- 佐久市教育委員会 1992 「長土呂遺跡群 上大林遺跡」  
『佐久市埋蔵文化財調査報告書第9集 国道141号線関係遺跡』
- 佐久市教育委員会 1993 『佐久市埋蔵文化財調査報告書第24集 長土呂遺跡群 上聖端遺跡』
- 佐久市教育委員会 2000 『佐久市埋蔵文化財調査報告書第83集 長土呂遺跡群 下聖端遺跡Ⅳ』
- 佐久市教育委員会 2005 『佐久市埋蔵文化財調査報告書第126集 長土呂遺跡群 聖原』第5分冊
- 佐久市教育委員会 2012 『佐久市埋蔵文化財調査報告書第211集 長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅱ』
- 佐久市教育委員会 2014 『佐久市埋蔵文化財調査報告書第226集 長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅲ』
- 佐久市教育委員会 2017 『佐久市埋蔵文化財調査報告書第252集 長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅳ』
- 佐久市教育委員会 2021 『佐久市埋蔵文化財調査報告書第288集 長土呂遺跡群 上聖端遺跡Ⅴ』

遺構	番号	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置 備考
				口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
H1	1	土師器	坏	14.0	11.2	4.8	暗文	ヨコナデ、ヘラケズリ	Ⅱ・Ⅳ区
H1	2	土師器	坏	—	—	(3.0)	ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラケズリ	Ⅱ区
H1	3	土師器	鉢小	(9.0)	—	(5.2)	ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ→ヘラミガキ	カマド脇方
H1	4	土師器	甕	(19.6)	—	(8.5)	ナデ	ナデ	Ⅱ区脇方・Ⅳ区
H1	5	土師器	壺	(17.6)	—	(3.6)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅰ区
H1	6	土師器	壺	(24.6)	—	(6.7)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅰ区床面
H1	7	土師器	壺	(27.2)	—	(22.3)	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	Ⅱ区床面
H1	8	須恵器	坏	—	—	(3.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅱ区
H1	9	須恵器	蓋	—	—	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅳ区
H1	10	須恵器	蓋	(12.6)	—	(1.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
H1	11	須恵器	壺	—	(11.0)	(8.6)	ロクロナデ	タタキ→ロクロナデ	Ⅱ区
H1	12	石器	磨石	15.1	3.6	4.6	磨面1		Ⅳ区
H1	13	石器	磨石	11.3	8.0	3.0	磨面2、縁辺に敲打痕		P6
H2	1	土師器	碗	—	—	(2.0)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	
H2	2	土師器	甕	(18.4)	—	(2.8)	ナデ	ナデ	
H2	3	須恵器	蓋	(15.8)	—	(1.5)	ロクロナデ、火押痕	ロクロナデ、火押痕	
H2	4	須恵器	坏	—	—	(3.2)	ロクロナデ、火押痕	ロクロナデ	
H2	5	須恵器	坏	—	—	(3.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	
H2	6	須恵器	壺	(9.0)	—	(1.8)	ロクロナデ、自然釉	ロクロナデ、自然釉	
H3	1	土師器	羽釜	(21.6)	—	(16.2)	ロクロナデ、ヘラナデ	ロクロナデ、ヘラケズリ	
H3	2	土師器	羽釜	—	—	(16.2)	ロクロナデ、ヘラナデ	タタキ、ヘラケズリ	
H3	3	須恵器	坏	—	—	(3.9)	ロクロナデ、火押痕	ロクロナデ、火押痕	
H3	4	須恵器	坏	—	—	(3.5)	ロクロナデ、火押痕	ロクロナデ、火押痕	
H3	5	石器	砥石	8.4	3.5	2	両端欠損、砥面4		
H3	6	鉄器	長細鏝	7.2	1.0	0.7	基部欠損		
H4	1	土師器	坏	13.7	6.1	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ、底部凹輪糸切	Ⅰ区 混入
H4	2	土師器	坏	15.7	9.1	3.9	ヘラミガキ・黒色処理	ヨコナデ、底部ヘラケズリ	Ⅰ区床面
H4	3	土師器	坏	15.0	9.3	4.1	ヘラミガキ・黒色処理	ヨコナデ、底部ヘラケズリ	Ⅰ区床面
H4	4	土師器	高坏	17.8	13.3	15.1	ヘラミガキ・黒色処理	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅰ区床面
H4	5	土師器	甕	18.4	—	(14.8)	ヘラナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	Ⅱ区床面
H4	6	土師器	甕	(19.2)	—	(20.3)	ハケ目、ヨコナデ	ハケ目、ヨコナデ	Ⅰ区・P9
H4	7	土師器	甕	18.7	7.3	32.6	ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅱ区床面
H4	8	土師器	甕	—	(11.4)	(5.3)	ナデ	ナデ	Ⅰ区
H4	9	土師器	壺	—	—	(11.5)	ハケ目、ヘラケズリ	ヘラミガキ	Ⅰ区
H4	10	土師器	壺	—	(6.6)	(3.2)	ヘラナデ	ヘラミガキ	Ⅰ区
H4	11	土師器	壺	(13.6)	(5.6)	(16.8)	ハケ目、ヨコナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅱ・Ⅳ区
H4	12	土師器	壺	(17.6)	(8.2)	32.2	ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅱ区床面
H4	13	土師器	壺	19.2	—	(20.3)	ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅳ区床面
H4	14	土師器	壺	28.1	—	(25.8)	ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅱ区PS上
H4	15	石製品	紡錘車	7.1	4.7	4.3	孔径0.7 一部ヘラミガキ		Ⅱ区
H4	16	石製品	臼玉	1.4	—	0.5	孔径0.3 一部欠損		Ⅰ区
H4	17	石器	凹石	8.6	7.4	3.9	両面中央に凹み		Ⅰ区床面
H4	18	石器	敲石	10.7	5.7	4.0	両端部に敲打痕		Ⅱ区床面
H4	19	石器	敲石	10.8	6.1	4.1	両端部に敲打痕		P9
H4	20	石製品	支脚	16.6	6.6	6.5			Ⅱ区
H4	21	石器	磨石	16.0	6.4	3.5	磨面2		Ⅰ区
H4	22	石器	砥石	(21.1)	(9.2)	(3.7)	一部欠損、砥面4		Ⅳ区床面
H4	23	石器	砥石	29.7	13.6	8.0	砥面4		Ⅱ区床面
H6	1	土師器	坏	(16.3)	(13.9)	4.0	ナデ	ヘラケズリ	脇方
H6	2	土師器	甕	(22.8)	—	(6.2)	ヘラナデ	ヘラケズリ	
H6	3	須恵器	坏	—	—	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅱ区
H6	4	石製品	支脚	(22.5)	(6.5)	(6.0)	被熱、一部欠損		カマド
H6	5	石製品	支脚	19.0	8.1	5.6	被熱		カマド
H7	1	土師器	坏	(12.8)	—	5.0	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅰ区

第1表 遺物観察表1

遺構番号	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置 備考	
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面		
H7	2	土師器	坏	—	—	(3.5)	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ナデ	IV区
H7	3	土師器	坏	—	—	(4.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅲ区掘方
H7	4	土師器	坏	—	—	(4.1)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	カマド
H7	5	土師器	坏	—	—	(4.3)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	Ⅱ区
H7	6	土師器	坏	(18.0)	—	(3.8)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	Ⅱ・Ⅳ区
H7	7	土師器	高坏	—	—	(2.6)	坏部：ヘラミガキ、黒色処理 脚部：ナデ、黒色処理	ヘラミガキ	Ⅳ区
H7	8	土師器	壺	13.9	6.4	13.5	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅳ区床面
H7	9	土師器	壺	(25.4)	—	(11.3)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅲ区
H7	10	土師器	壺	—	(6.4)	(3.1)	ナデ	摩耗により不明	Ⅲ区
H7	11	土師器	甕	(24.6)	—	(5.0)	ヨコナデ	ヘラケズリ	Ⅱ区
H7	12	土師器	甕	(18.6)	5.2	32.3	ハケ目、ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	カマド、Ⅱ区
H7	13	土師器	甕	(22.2)	—	(17.7)	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅰ・Ⅱ区
H7	14	土師器	甕	(20.4)	—	(15.3)	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅰ区
H7	15	土師器	甕	—	—	(25.1)	ヘラナデ	ヘラケズリ	カマド、Ⅱ区
H7	16	土製品	丸玉	1.1	1.1	0.7		孔径0.15cm	Ⅰ区
H7	17	石器	磨石	11.2	6.5	3.5		磨面1、端部に敲打痕	Ⅳ区
H7	18	鉄製品	鎌	(4.3)	(3.5)	(1.5)		刃先のみ	Ⅳ区
H7	19	鉄製品	長細鐮	(10.1)	(1.2)	0.5		基部先端欠損、損傷	Ⅲ区
H10	1	土師器	甕	(23.2)	—	(13.3)	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅳ区床面
H10	2	須恵器	蓋	13.4	2.7	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ、 天井部ヘラケズリ	Ⅰ区床面
H10	3	須恵器	蓋	—	—	(1.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅱ区
H10	4	須恵器	蓋	(14.4)	—	(1.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅲ区
H11	1	弥生土師器	甕	—	—	(2.0)	ヘラミガキ	櫛掻波文、櫛掻蓮文	Ⅰ区
H11	2	土師器	坏	(14.4)	—	(3.4)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	Ⅰ区
H11	3	土師器	坏	(14.8)	—	4.3	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	Ⅰ区
H11	4	土師器	坏	—	—	(4.2)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	Ⅰ区
H11	5	土師器	坏	—	—	(3.2)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	Ⅰ区
H11	6	土師器	鉢	(22.4)	—	(7.9)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	Ⅰ・Ⅱ区
H11	7	土師器	甕	(15.6)	—	(8.3)	ヘラナデ	ヘラケズリ	カマド
H11	8	土師器	壺	—	(5.8)	(7.0)	ヘラナデ	ヘラケズリ	カマド
H11	9	土師器	壺	—	—	(19.3)	ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	カマド
H11	10	石器	編物石	11.2	5.8	3.0		両側面に抉り	Ⅱ区
H11	11	石器	剥片	3.1	1.6	0.7		縁辺に二次加工される黒曜石剥片	Ⅰ区
H12	1	土師器	坏	15.2	9.2	4.2	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	Ⅰ・Ⅲ区
H12	2	土師器	坏	15.9	11.0	4.0	ヘラミガキ、黒色処理	ヨコナデ、ヘラケズリ	Ⅲ区、カマド
H12	3	土師器	坏	(15.2)	(11.6)	(3.7)	ハケ目状のヨコナデ ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	Ⅲ・Ⅳ区
H12	4	土師器	坏	(12.6)	(5.7)	4.6	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅲ区
H12	5	土師器	鉢	(13.8)	(5.0)	7.2	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅲ・Ⅳ区
H12	6	土師器	高坏	17.0	—	(5.4)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ	Ⅳ区
H12	7	土師器	高坏	—	—	(6.8)	ヘラナデ、黒色処理	ヘラミガキ	Ⅲ区
H12	8	土師器	甕	—	5.9	(7.1)	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅱ区
H12	9	土師器	甕	(13.8)	5.5	10.5	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ	Ⅳ区
H12	10	土師器	甕	(18.6)	—	(27.4)	ヘラナデ	ヘラケズリ	カマド
H12	11	土師器	甕	(20.2)	—	(18.4)	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅳ区壁際
H12	12	土師器	甕	(16.0)	—	(17.9)	ハケ目、ナデ	ヨコナデ	カマド
H12	13	土師器	甕	(15.0)	—	(8.9)	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅰ区
H12	14	土師器	甕	(17.0)	—	(6.8)	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅳ区
H12	15	土師器	甕	—	(6.8)	(2.9)	ナデ	ヘラケズリ	Ⅳ区
H12	16	土師器	甕	—	(5.9)	(30.1)	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅳ区床面
H12	17	土師器	甕	—	5.2	(8.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅳ区
H12	18	土師器	甕	—	(12.0)	(4.7)	ヘラミガキ	摩耗により不明	Ⅱ区
H12	19	土師器	坏	(12.6)	14.8	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区
H12	20	須恵器	坏	—	—	(2.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
H12	21	石器	凹石	10.0	8.6	5.6		凹径5.5～5.8cm、深さ1.5cm	Ⅲ区

第2表 遺物観察表2

遺構	番号	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文様等		出土位置 備考
				口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
Ⅱ12	22	石器	巖石	11.5	5.8	3.3		側面に敲打痕	Ⅳ区
Ⅱ12	23	石器	燧石	8.3	7.4	2.7		端部に使用痕	Ⅱ区
Ⅱ12	24	石器	燧石	8.9	5.9	4.5			Ⅱ区
Ⅱ12	25	石器	燧石	7.9	6.5	4.7		側面に挟りか	Ⅱ区
Ⅱ12	26	石器	燧石	9.2	7.1	4.2			Ⅱ区
Ⅱ12	27	石器	燧石	11.0	4.6	2.8			Ⅱ区
Ⅱ12	28	石器	燧石	12.7	6.9	2.3		両側面に挟り	Ⅱ区
Ⅱ12	29	石器	燧石	12.4	6.9	4.7			Ⅱ区
Ⅱ12	30	鉄製品	鎌	12.1	1.9	0.2		一部欠損	Ⅱ区
Ⅱ13	1	縄文土器	深鉢	—	—	(2.2)		横円文	Ⅱ区
Ⅱ13	2	土師器	坏	(15.4)	(10.2)	3.8	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅰ区
Ⅱ13	3	土師器	坏	(15.1)	(11.4)	4.3	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅰ区
Ⅱ13	4	土師器	坏	(14.2)	—	(3.8)	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅱ区
Ⅱ13	5	土師器	坏	(14.0)	(14.6)	4.6	ヘラミガキ(暗文)	ヘラケズリ、ヨコナデ	Ⅰ区
Ⅱ13	6	土師器	鉢	—	—	(6.4)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラケズリ	Ⅰ・Ⅱ区
Ⅱ13	7	土師器	甕	(18.2)	—	(12.9)	ナデ	ヘラケズリ	Ⅱ区床面
Ⅱ13	8	土師器	甕	(19.0)	—	(3.6)	ヨコナデ	ヨコナデ	Ⅱ区
Ⅱ13	9	土師器	甕	(21.8)	—	(4.4)	ヨコナデ	ハケ目	Ⅱ区
Ⅱ13	10	土師器	甕	—	—	(3.9)	ヘラミガキか	ヨコナデ	Ⅱ区
Ⅱ13	11	土師器	甕	—	—	(4.5)	ヘラナデ	ナデ	Ⅱ区
Ⅱ13	12	土師器	甕	—	7.8	(9.2)	ヘラナデ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅱ区床面
Ⅱ13	13	土師器	甕	—	(6.2)	(12.3)	ナデ	ヘラケズリ	Ⅱ区
Ⅱ13	14	土師器	甕	—	(6.4)	(9.3)	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅱ区
Ⅱ13	15	土師器	甕	(16.4)	—	(5.2)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅰ区
Ⅱ13	16	土師器	壺	—	7.2	(2.5)	ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅱ区
Ⅱ13	17	土師器	壺	—	8.2	(4.4)	ナデ	摩耗により不明	Ⅰ区
Ⅱ13	18	須恵器	蓋	—	—	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
Ⅱ13	19	石器	石鏃	(2.0)	(1.3)	(0.4)		黒曜石、脚部欠損	Ⅰ区
Ⅱ13	20	石器	磨石	10.6	6.1	3.7		端部に赤色顔料付着	Ⅰ区床面
Ⅱ13	21	石器	磨石	16.9	9.1	3.9		磨面5	Ⅱ区
Ⅱ13	22	石器	燧石	8.0	6.5	3.4		両側に挟り	Ⅳ区床面
Ⅱ13	23	石器	燧石	8.4	6.1	3.0			Ⅳ区床面
Ⅱ13	24	石器	燧石	9.2	6.2	3.9		左側に挟り	Ⅳ区床面
Ⅱ13	25	石器	燧石	11.5	6.8	2.9			Ⅳ区床面
Ⅱ13	26	石器	燧石	8.7	6.0	5.7			Ⅳ区床面
Ⅱ13	27	石器	燧石	7.9	7.1	2.9		右側面に使用痕	Ⅳ区床面
Ⅱ13	28	石器	燧石	9.8	6.9	2.6		右側面に使用痕	Ⅳ区床面
Ⅱ13	29	石器	燧石	9.0	7.3	5.0		右側に挟り	Ⅳ区床面
Ⅱ13	30	石器	燧石	9.7	7.3	4.2			Ⅳ区床面
Ⅱ13	31	石器	燧石	9.3	6.9	4.0		両側に挟り	Ⅳ区床面
Ⅱ13	32	石器	燧石	9.9	5.2	4.3		両側に使用痕	Ⅳ区床面
Ⅱ13	33	石器	燧石	8.8	6.1	4.0		左側から裏面に使用痕	Ⅳ区床面
Ⅱ13	34	石器	燧石	13.1	5.5	2.5		端部に使用痕	Ⅳ区床面
Ⅱ13	35	石器	燧石	7.4	5.9	4.8			Ⅳ区床面
Ⅱ13	36	石器	燧石	8.9	5.2	4.5			Ⅳ区床面
Ⅱ13	37	石器	燧石	8.4	6.9	2.5		両側に挟り	Ⅳ区床面
Ⅱ14	1	土師器	鉢	(8.8)	—	(3.4)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ、黒色処理	Ⅱ区
Ⅱ14	2	土師器	甕	(11.4)	—	(3.9)	ナデ	ヘラケズリ	Ⅳ区
Ⅱ14	3	土師器	甕	(20.2)	—	(11.9)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	P2
Ⅱ14	4	須恵器	坏	—	(9.0)	(1.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅱ区
Ⅱ14	5	須恵器	壺	—	9.1	(4.3)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切	Ⅱ区
Ⅱ14	6	灰釉陶器	壺	—	7.2	(4.0)	ロクロナデ、磨輪	ロクロナデ、磨輪	Ⅳ区床面
Ⅱ14	7	石器	磨石	14.1	5.1	3.2		磨面1、敲打痕	Ⅱ区
Ⅱ14	8	石器	燧石	10.4	4.7	3.3		両側面に使用痕	Ⅳ区床面
Ⅱ14	9	石器	燧石	11.3	7.1	2.7		両側に使用痕	Ⅳ区床面

第3表 遺物観察表3

造構	番号	種別	器種	法量 (cm)			成形・調整・文種等		出土位置 備考
				口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	内面	外面	
Ⅱ14	10	石器	編物石	9.6	6.6	3.5	両側に挟り		Ⅳ区床面
Ⅱ14	11	石器	編物石	10.8	6.8	2.5			Ⅳ区床面
Ⅱ14	12	石器	編物石	9.6	5.4	3.7	両側に使用痕		Ⅱ区側方
Ⅱ14	13	石器	編物石	11.2	5.0	4.0			Ⅱ区側方
Ⅱ14	14	石器	編物石	9.8	5.5	3.3			Ⅱ区側方
Ⅱ14	15	石製品	石製模造品	(4.3)	2.4	0.7	滑石、孔径0.3cm、未成品		Ⅰ区
Ⅱ15	1	土師器	甕	(22.2)	—	(5.6)	ヘラナデ	ヘラケズリ	カマド
Ⅱ15	2	土師器	甕	—	(6.0)	(21.2)	ヘラナデ	ヘラケズリ	カマド・Ⅰ区
Ⅱ16	1	土師器	甕	(17.0)	—	(7.5)	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅱ区
Ⅱ16	2	須恵器	坏	(12.8)	—	(2.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
Ⅱ17	1	土師器	坏	(18.2)	(12.6)	(3.5)	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅰ区
Ⅱ17	2	土師器	坏	(17.0)	(11.4)	(4.5)	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅱ区
Ⅱ17	3	土師器	坏	(16.6)	(10.8)	(4.7)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅱ区
Ⅱ17	4	土師器	坏	(13.4)	(13.6)	(4.0)	ナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	Ⅱ区
Ⅱ17	5	土師器	鉢	(15.0)	—	(7.7)	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅱ区
Ⅱ17	6	土師器	甕	18.7	6.7	32.3	ヘラナデ	ヘラケズリ	カマド
Ⅱ17	7	土師器	甕	(17.6)	—	(3.0)	ヘラミガキ	ヨコナデ	Ⅱ区
Ⅱ17	8	土師器	甕	18.5	—	(11.9)	ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅰ区床面
Ⅱ17	9	土師器	甕	—	8.4	(8.1)	ヘラナデ	ロクロナデ	Ⅰ区床面
Ⅱ17	10	須恵器	坏	—	(7.0)	(1.3)	ロクロナデ	ヘラケズリ、ロクロナデ	Ⅱ区
Ⅱ17	11	須恵器	甕	—	—	(2.9)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅱ区
Ⅱ17	12	石器	磨石	6.6	5.9	4.1	磨面2		Ⅱ区
Ⅱ17	13	石器	編物石	9.9	5.6	3.4			P2
Ⅱ17	14	石器	編物石	11.6	7.0	2.6	縁切に使用痕		Ⅰ区床面
Ⅱ17	15	石器	編物石	14.5	6.4	4.0			Ⅱ区床面
Ⅱ18	1	土師器	小型甕	(4.0)	3.4	4.6	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転未切	掘方
Ⅱ19	1	土師器	坏	(12.0)	(10.6)	3.3	ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラケズリ	カマド
Ⅱ19	2	土師器	坏	(14.4)	(12.6)	(4.8)	ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅱ区
Ⅱ19	3	土師器	坏	(16.0)	(13.6)	(4.4)	ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラケズリ	Ⅱ区
Ⅱ19	4	土師器	坏	14.5	8.8	4.1	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	カマド焼土
Ⅱ19	5	土師器	坏	(16.6)	9.1	4.5	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅱ区
Ⅱ19	6	土師器	坏	(16.2)	(9.4)	(3.3)	ヘラミガキ	ヘラミガキ、ヘラケズリ	カマド
Ⅱ19	7	土師器	坏	14.3	6.5	5.1	ヘラミガキ	ナデ	カマド焼土
Ⅱ19	8	土師器	鉢	(20.4)	—	(6.9)	ヨコナデ、黒色処理	ヨコナデ、ヘラケズリ	カマド
Ⅱ19	9	土師器	甕	12.6	6.1	16.8	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅱ区床面
Ⅱ19	10	土師器	甕	18.0	—	(20.1)	ヘラナデ	ヘラケズリ	Ⅰ区床面
Ⅱ19	11	土師器	甕	17.5	—	(32.3)	ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	Ⅰ区床面
Ⅱ19	12	土師器	甕	—	7.6	(11.0)	ハケ目、ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラケズリ、ヘラミガキ	Ⅰ区床面
Ⅱ19	13	須恵器	甕	—	—	(2.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
Ⅱ19	14	須恵器	甕	—	—	(3.1)	タタキ、ナデ	タタキ	Ⅳ区
Ⅱ19	15	石器	編物石	9.8	6.0	3.5	縁切に使用痕		P1
Ⅱ19	16	石器	編物石	10.5	7.9	2.4			Ⅰ区床面
Ⅱ20	1	土師器	甕	—	—	(1.5)	ヨコナデ	ヨコナデ	Ⅳ区
Ⅱ20	2	土師器	高坏	—	(12.2)	(2.2)	ヘラナデ	ヘラミガキ	Ⅰ区
Ⅱ20	3	須恵器	坏	—	(6.0)	(2.3)	ロクロナデ	底部ヘラ切→ナデ ロクロナデ	Ⅳ区
Ⅱ20	4	須恵器	甕	—	—	(1.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	Ⅰ区
D1	1	須恵器	坏	—	(6.0)	(1.1)	ロクロナデ	底部ヘラ切、ロクロナデ	
D1	2	須恵器	甕	—	—	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	
D1	3	須恵器	甕	—	—	(7.2)	タタキ	タタキ	

第4表 遺物観察表4





調査区遠景（北から 右奥が墓科山）



調査区全景（北から）



調査区東側完掘状況（東から）



調査区中央部完掘状況（西から）



調査区西端部完掘状況（西から）



H1 号住居址完掘状況（南から）



H1 号住居址掘方完掘状況（南から）



H2 号住居址完掘状況（北から）



H2 号住居址掘方完掘状況（南西から）



H3 号住居址完掘状況（南から）



H3 号住居址掘方完掘状況（南から）



H4 号住居址完掘状況（東から）



H4 号住居址完掘状況（西から）



H4 号住居址カマド完掘・遺物出土状況（南から）



H4 号住居址掘方完掘状況（東から）



H4 号住居址掘方完掘状況（西から）



H5 号住居址完掘状況（北から）



H5 号住居址掘方完掘状況（北西から）



H6 号住居址完掘状況（南から）



H6 号住居址カマド完掘状況（南西から）



H6 号住居址掘方完掘状況（北西から）



H7 号住居址完掘状況（南から）



H7 号住居址完掘状況（北から）



H7 号住居址カマド完掘状況（南から）



H7 号住居址カマド掘方完掘状況（南から）



H7 号住居址掘方完掘状況（南から）



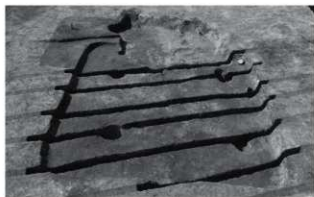
H8 号住居址完掘状況（南から）



H9 号住居址完掘状況（南から）



H9 号住居址掘方完掘状況（南から）



H10 号住居址完掘状況（南から）



H10 号住居址掘方完掘状況（南から）



H11 号住居址完掘状況（南から）



H11 号住居址カマド完掘状況（南から）



H11 号住居址掘方完掘状況（南から）



H11 号住居址土層断面（北から）



H12 号住居址完掘状況（南から）



H12 号住居址カマド完掘状況（南から）



H12号住居址掘方完掘状況（南から）



H12号住居址掘方完掘状況（北から）



H13号住居址完掘状況（北から）



H13号住居址掘方完掘状況（北から）



H14号住居址完掘状況（南から）



H14号住居址掘方完掘状況（南から）



H15号住居址完掘状況（南から）



H15号住居址掘方完掘状況（南から）





H16 号住居址完掘状況（南から）



H16 号住居址カマド完掘状況（南から）



H16 号住居址カマド掘方完掘状況（南から）



H16 号住居址掘方完掘状況（南から）



H17 号住居址完掘状況（南から）



H17 号住居址完掘状況（北から）



H17 号住居址掘方完掘状況（南から）



H17 号住居址掘方完掘状況（北から）



H18号住居址掘方完掘状況(南から)



H18号住居址掘方完掘状況(北から)



H19号住居址完掘状況(北から)



H19号住居址カマド完掘状況(南から)



H19号住居址カマド掘方完掘状況(南から)



H19号住居址掘方完掘状況(北から)



H20号住居址完掘状況(南から)



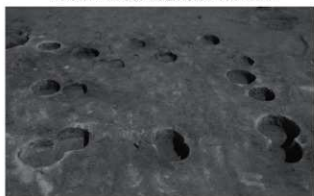
H20号住居址掘方完掘状況(南から)



F1 号掘立柱建物址完掘状況（南から）



F2 号掘立柱建物址完掘状況（南から）



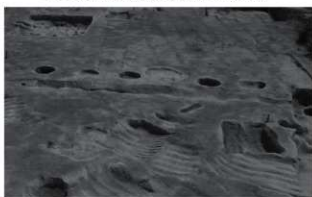
F3 号掘立柱建物址完掘状況（南から）



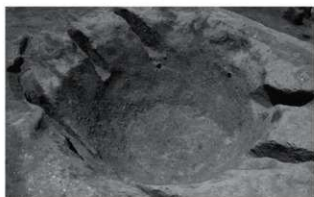
F4 号掘立柱建物址完掘状況（南から）



M1 号溝址完掘状況（南から）



M2 号溝址完掘状況（西から）



D1 号土坑完掘状況（南東から）

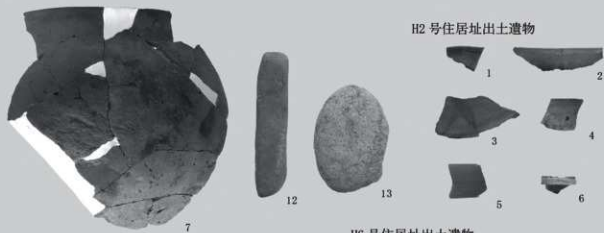


D2 号土坑完掘状況（北から）

H1 号住居址出土遺物



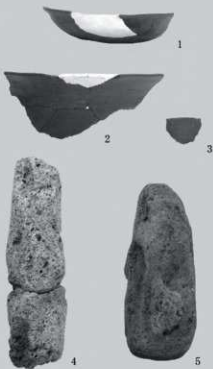
H2 号住居址出土遺物



H3 号住居址出土遺物



H6 号住居址出土遺物



H4 号住居址出土遺物



H4 号住居址出土遺物



14



1



15

(1:2)



18



19



22



23



16

(1:1)



17



20



21

H7 号住居址出土遺物



1



2



3



4



8



9



5



6



7

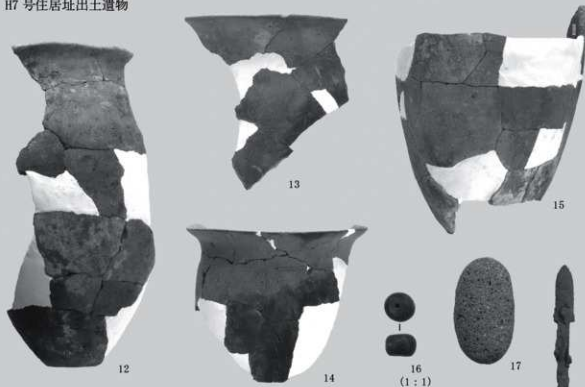


10



11

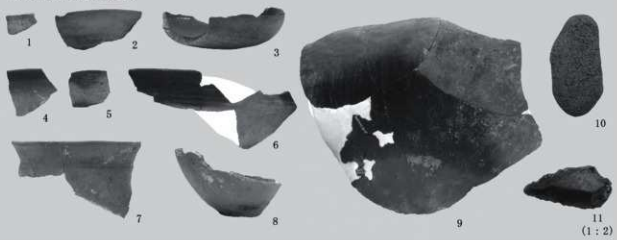
H7 号住居址出土遺物



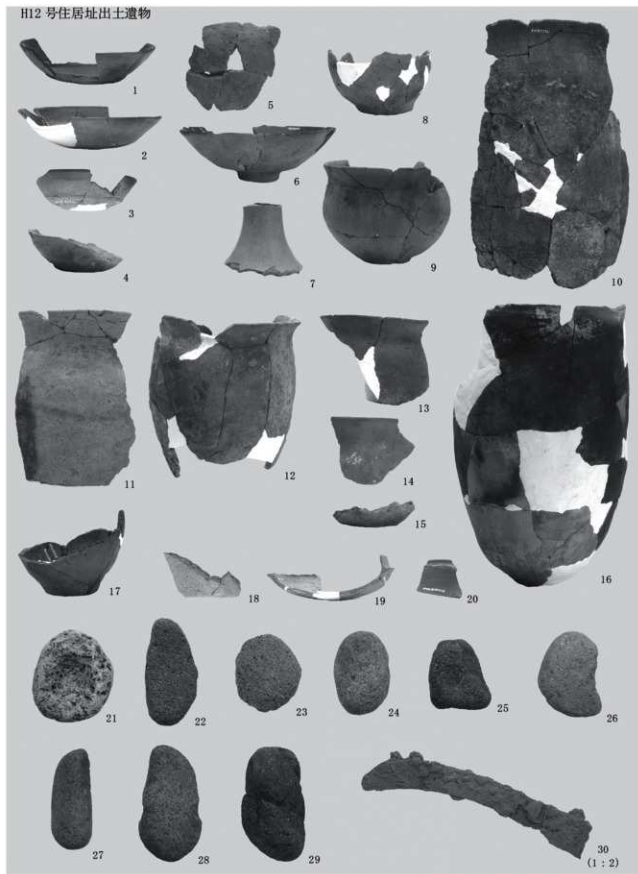
H10 号住居址出土遺物



H11 号住居址出土遺物

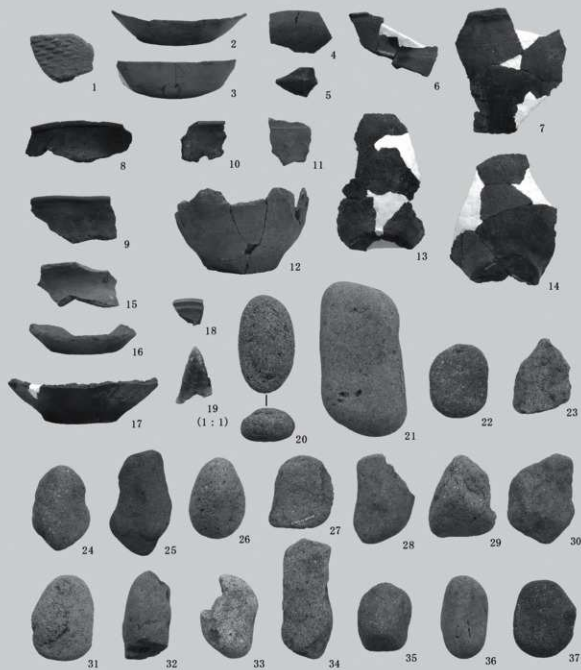


H12 号住居址出土遺物





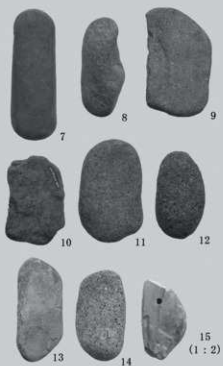
H13 号住居址出土遺物



H14 号住居址出土遺物



H14 号住居址出土遺物



H15 号住居址  
出土遺物

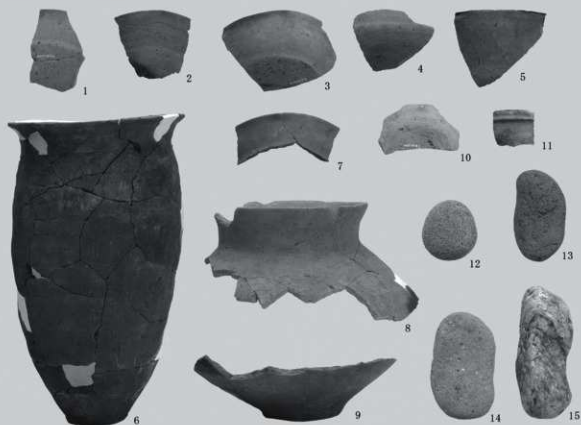


H16 号住居址  
出土遺物



H18 号住居址  
出土遺物

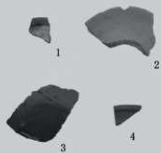
H17 号住居址出土遺物



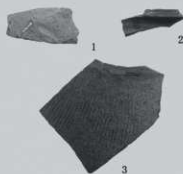
H19 号住居址出土遺物



H20 号住居址出土遺物



D1 号土坑出土遺物



報告書抄録

ふりがな	ながとろいせきぐん かみひじりばたいせきろく							
書名	長士呂遺跡群 上聖端遺跡VI							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第282集							
編著者名	久保 浩一郎							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込 2913 Tel:0267-63-5321 Fax:0267-63-5322							
発行年月日	令和3年(2021) 9月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
ながとろいせきぐん かみひじりばたいせきろく 長士呂遺跡群 上聖端遺跡VI	さくしながとろ 佐久市長士呂 140-1他	20217	9	36° 17' 14"	138° 28' 26"	20200402 ～ 20200608	1,820	倉庫 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
長士呂遺跡群 上聖端遺跡VI	集落址	古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居址 20軒 掘立柱建物址 4棟 土坑 2基 溝 址 2条 ピット 35基	縄文土器、弥生土器、土師器、 須恵器、灰輪陶器、石器、石 製品、土製品、鉄製品				
要約	佐久市北部の濁川左岸台地上に展開する古墳時代後期から平安時代の集落跡の一部を調査した。北側の聖原遺跡から続く大規模な集落の西端部と考えられ、古墳時代後期から平安時代の住居址 20軒等が検出された。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第282集  
長士呂遺跡群 上聖端遺跡VI

令和3年(2021) 9月

編集・発行 佐久市教育委員会事務局  
〒385-8501 長野県佐久市中込 3056

社会教育部 文化振興課文化財事務所  
〒385-0051 長野県佐久市中込 2913  
Tel:0267-63-5321

印刷所 双葉印刷







